DENON®

AVR-X550BT

AV SURROUND RECEIVER

取扱説明書

付属品 5
乾電池の入れかた 6
リモコンの使いかた 6
特長 7
高音質 7
多彩な機能 7
簡単操作 9
各部の名前 10
フロントパネル 10
ディスプレイ 13
リアパネル 14
リモコン 16

接続のしかた

スピーカーを接続する 20
スピーカーを設置する 20
スピーカーを接続する 22
標準的なスピーカーの構成と接続 24
テレビを接続する 25
接続 1:HDMI 端子付き/ARC 機能対応のテレビ 26
接続 2:HDMI 端子付き/ARC 機能非対応のテレビ 27
接続 3:HDMI 端子がないテレビ 28
再生機器を接続する 29
セットトップボックスを接続する(衛星放送チューナー/ケーブルテレビチューナー) 30
DVD プレーヤーまたはブルーレイディスクプレーヤーを接続する 31
ゲーム機やビデオカメラなどを接続する 32
USB 端子に USB メモリーを接続する 33
FM アンテナや AM ループアンテナを接続する 34
電源コードを接続する 36

再生のしかた

基本操作 38
電源を入れる 38
入力ソースを選ぶ 38
音量を調節する 39
一時的に音を消す(ミューティング) 39
DVD プレーヤーやブルーレイディスクプレーヤーを再生する 39
USB メモリーを再生する 40
USB メモリーに保存されているファイルを再生する 41
Bluetooth 機器の音楽を聴く 42
Bluetooth 機器の音楽を聴く 43
2 台目以降の Bluetooth 機器とペアリングする 45
Bluetooth 機器から本機に再接続する 46

FM 放送または AM 放送を聴く 47
FM 放送または AM 放送を聴く 48
自動で放送局を選局しプリセットする(オートプリセット) 49
聴いている放送局をプリセットする(プリセットに登録) 50
プリセットした放送局を聴く 50
プリセットした放送局をスキップする(プリセットスキップ) 51
プリセットスキップを解除する 51
便利な機能 52
リピート再生をする(リピート) 53
ランダム再生をする(ランダム) 53
トーンを調節する(トーンコントロール) 54
深夜のリスニング音量を最適化する(ナイトモード) 55
音声の再生中にお好みの映像をモニターに映し出す(ビデオセレクト) 56
サウンドモードを選ぶ 57
サウンドモードを選ぶ 57
HDMI コントロール機能 61
設定のしかた 61
入力ソースに合わせて各チャンネルの音量を調節する(チャンネルレベル調節) 62
スリープタイマー機能 63
スリープタイマーを設定する 64
クイックセレクトプラス機能 65
設定を呼び出す 66
設定を変更する 66

設定のしかた

メニュー 一覧 67
メニュー操作のしかた 70
オーディオ 71
サラウンドパラメーター 71
リストアラー 74
オーディオディレイ 75
音量 75
バイリンガルモード 76
ルーム EQ 77
ビデオ 78
HDMI オーディオ出力 78
HDMI パススルー 78
パススルーソース 79
HDMI コントロール 79
ARC 80
TV Audio 切り替え 80
パワーオフコントロール 81

入力ソース 82
入力端子の割り当て 82
ソースレベル 82
オーディオ入力端子の選択 83
スピーカー 84
オートセットアップ 84
スピーカー設定の流れ(オートセットアップ) 86
エラーメッセージについて 88
マニュアルセットアップ 89
スピーカーの構成 89
距離 90
レベル 91
クロスオーバー周波数 91
低音 92
一般 93
言語 93
エコ設定 93
Bluetooth 95
フロントディスプレイ 96
ファームウェア 96
セットアップロック 97
初期化 97
情報を確認する 98

困ったときは

こんなときの解決方法 100
故障かな？と思ったら 101
お買い上げ時の設定に戻す 113
保証と修理について 114

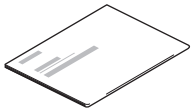
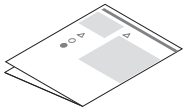
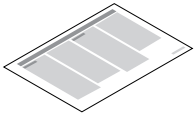
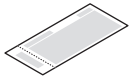
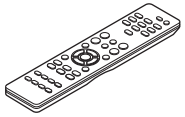
付録

HDMI について 116
USB メモリーの再生について 119
Bluetooth 機器の再生について 120
パーソナルメモリープラス機能 121
ラストファンクションメモリー 121
サウンドモードとチャンネル出力の関係 122
サウンドモードとパラメーター一覧表 123
入力信号の種類と対応するサウンドモード 124
用語の解説 125
登録商標について 130
主な仕様 132
使用上のご注意 136
索引 137

お買い上げいただきありがとうございます。
本機をご使用になる前に、必ずこの取扱説明書をお読みください。
お読みになったあとは、いつでも見られるところに大切に保管してください。

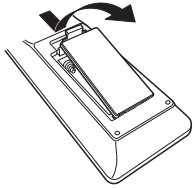
付属品

ご使用になる前にご確認ください。

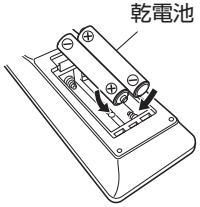
 かんたんスタートガイド	 安全にお使いいただくために	 電波に関するご注意	 保証書	FM室内アンテナ
AMループアンテナ	セットアップマイク	 リモコン（RC-1216）	単4形乾電池（2本）	

乾電池の入れかた

1 裏ぶたを矢印の方向へ押し上げて取り外す。



2 乾電池(2 本)を乾電池収納部の表示に合わせて正しく入れる。



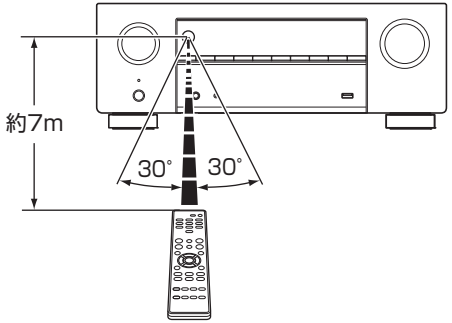
3 裏ぶたを元どおりにする。

ご注意

- 破損･液漏れの恐れがありますので、
  - 新しい乾電池と使用済みの乾電池を混ぜて使用しないでください。
  - 違う種類の乾電池を混ぜて使用しないでください。
- リモコンを長期間使用しないときは、乾電池を取り出してください。
- 万一、乾電池の液漏れがおこったときは、乾電池収納部内についた液をよく拭き取ってから新しい乾電池を入れてください。

リモコンの使いかた

リモコンはリモコン受光部に向けて使用してください。



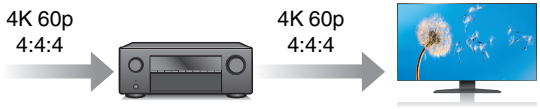
特長

高音質

- **ディスクリート回路構成による全 5 チャンネル同一クオリティーのパワーアンプ搭載(90W×5 チャンネル)**
  本機には、オリジナル音源を忠実に再生するために、全チャンネルに同一のクオリティーと同一のパワーを持つパワーアンプを搭載しています。
  パワーアンプ回路には、ディスクリート回路構成を採用することによって、高品位な再生を実現しています。

多彩な機能

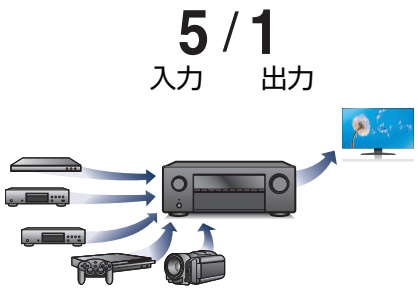
- **4K 60Hz 入出力対応**



4K Ultra HD (High Definition)で、1 秒間に 60 フレーム分の映像信号(60p)の入出力を実現しました。4K Ultra HD、60p 映像入力信号に対応したテレビと接続することで、動きの速い映像も滑らかに、高精細画質によって得られる臨場感のある映像を楽しめます。
そして、本機は 4K 60p、4:4:4、24bit の映像処理に対応しています。元の解像度のまま映像処理をおこなうことで、画質を損なうことなく、そのまま高精細な画質を楽しめます。
本機は HDR(High Dynamic Range)および色域規格の BT. 2020 にも対応しています。

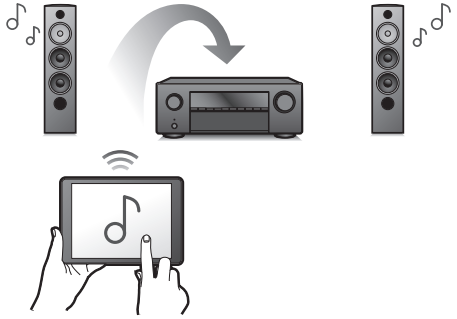
- **HDCP 2.2**
  本機はコンテンツ保護方式規格 HDCP 2.2 に対応しています。

- **さまざまなデジタル AV 機器を接続できる HDMI 端子を装備（入力:5 系統、出力:1 系統）**



本機には 5 系統の HDMI 入力端子と 1 系統の HDMI 出力端子を装備しており、ブルーレイディスクプレーヤー、ゲーム、HD ビデオカメラなどのさまざまな HDMI 端子付き機器との接続ができます。

- **簡単に Bluetooth 機器とのワイヤレス接続が可能(☞42 ページ)**



お手持ちのスマートフォン、タブレット、パソコンなどとワイヤレス接続することで、簡単に音楽を楽しめます。

- **省エネ設計**

本機は使用中の消費電力を低減しながら、映画や音楽を楽しむことができるエコモード機能、および未使用時に自動的に電源をオフするオートスタンバイ機能を搭載しています。不要な電力の節約ができます。

簡単操作

- **基本的な設定が簡単にできる“セットアップアシスタント”メニュー**
  最初に言語選択画面で言語を選択します。テレビ画面に表示する操作ガイドに沿って、誰でも簡単にスピーカーの接続など基本的な設定がおこなえます。
- **操作性に優れたグラフィカル・ユーザー・インターフェース**
  本機には、“グラフィカル・ユーザー・インターフェース”を搭載し、操作性を向上させています。
- **iPad、iPhone や Android™機器(Google、Amazon Kindle Fire)で本機の基本的な操作がおこなえる“Denon 500 Series Remote”アプリに対応**
  “Denon 500 Series Remote”* アプリを使用すると、iPhone、iPad、Android スマートフォンまたはタブレットから本機をコントロールすることができます。このアプリでは、基本的に電源のオン/オフ、音量調節、消音および入力ソースの選択ができます。

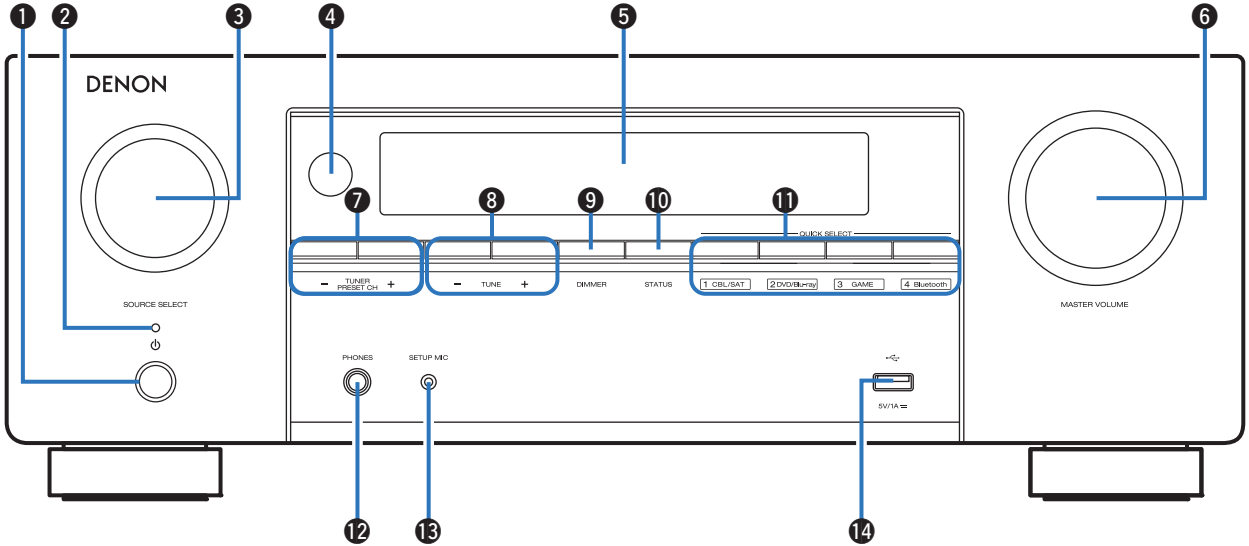
* “Denon 500 Series Remote”アプリを iOS や Android 機器にダウンロードしてください。(無料)“Denon 500 Series Remote”アプリをご使用になる場合は、あらかじめ iOS または Android 機器と本機をペアリングさせてください。

ステレオ音のエチケット

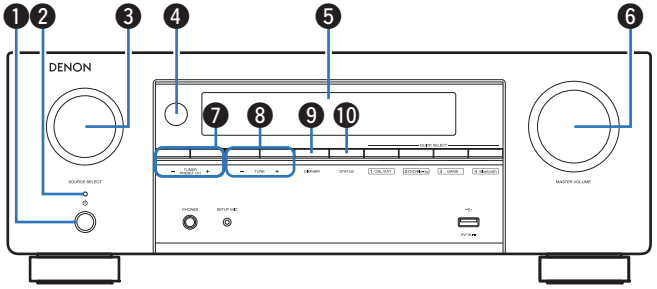
- 隣近所への配慮(おもいやり)を十分にいたしましょう。
- 特に静かな夜間は、小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽鑑賞には、特に気を配りましょう。

各部の名前

フロントパネル



詳しくは、次のページをご覧ください。



❶ 電源ボタン(⏻)
電源をオン/オフ(スタンバイ)します。(☞38 ページ)

❷ 電源表示
電源の状態によって、次のように点灯します。
- 緑色:電源オン時
- 消灯:通常のスタンバイ時
- 赤色:
  - “HDMI パススルー”の設定が“オン”のとき (☞78 ページ)
  - “HDMI コントロール”の設定が“オン”のとき (☞79 ページ)
  - “Bluetooth スタンバイ”の設定が“オン”のとき (☞95 ページ)

❸ 入力ソース選択つまみ(SOURCE SELECT)
入力ソースを選択します。(☞38 ページ)

❹ リモコン受光部
リモコンからの信号を受信します。(☞6 ページ)

❺ ディスプレイ
各種情報を表示します。(☞13 ページ)

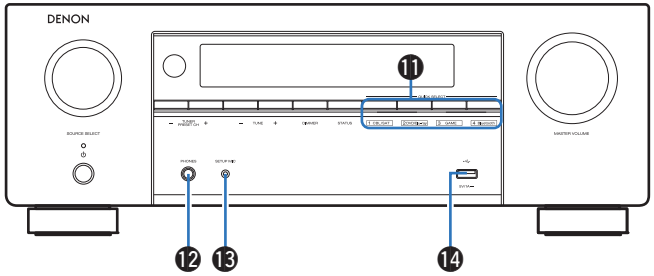
❻ 音量調節つまみ(MASTER VOLUME)
音量を調節します。(☞39 ページ)

❼ チューナープリセットチャンネルボタン (TUNER PRESET CH +、−)
プリセットした放送局を選択します。(☞50 ページ)

❽ 選局ボタン(TUNE +, -)
FM 放送局または AM 放送局を選択します。(☞48 ページ)

❾ ディマーボタン(DIMMER)
ディスプレイの明るさを切り替えます。(☞96 ページ)

❿ ステータスボタン(STATUS)
ボタンを押すたびにステータス情報を切り替えて、ディスプレイに表示します。



⓫ クイックセレクトボタン(QUICK SELECT)
それぞれのボタンに登録している入力ソース、音量およびサウンドモードなどの複数の設定をワンタッチで呼び出します。
(☞65 ページ)

⓬ ヘッドホン端子(PHONES)
ヘッドホンを接続します。
ヘッドホンのプラグを差し込むと、スピーカーおよびサブウーハー端子から音が出なくなります。

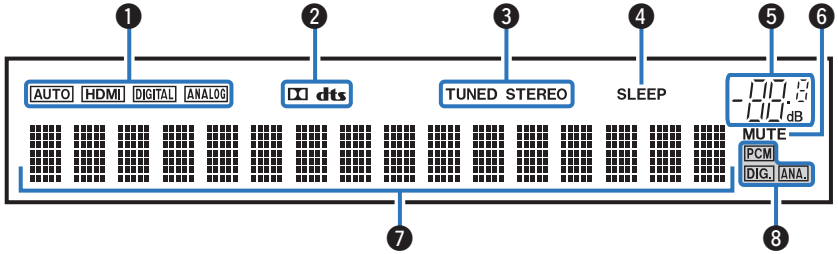
ご注意

- ヘッドホンをご使用になるときは、音量を上げすぎないようにご注意ください。

⓭ セットアップマイク端子(SETUP MIC)
付属のセットアップマイクを接続します。(☞87 ページ)

⓮ USB 端子(⇜)
USB ストレージ(USB メモリーなど)に付属の USB ケーブルを接続します。(☞33 ページ)

ディスプレイ



❶ **入力モード表示**
各入力ソースの音声入力モードの設定により点灯します。(☞83 ページ)

❷ **デコーダー表示**
Dolby または DTS 信号が入力されているとき、または Dolby または DTS デコーダーが動作しているときに点灯します。

❸ **チューナー受信モード表示**
入力ソースが“Tuner”のとき、放送局の受信状態により点灯します。
TUNED:放送局を受信したときに点灯します。
STEREO:FM ステレオ放送を受信したときに点灯します。

❹ **スリープタイマー表示**
スリープタイマーを設定しているときに点灯します。(☞63 ページ)

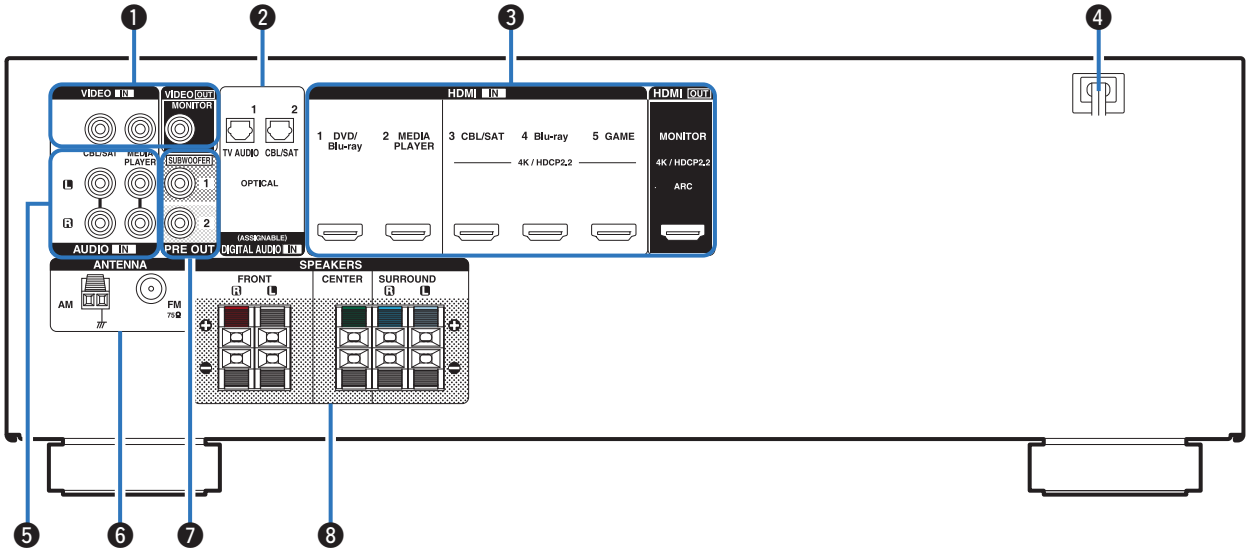
❺ **音量表示**

❻ **ミュート表示**
消音中に点滅します。(☞39 ページ)

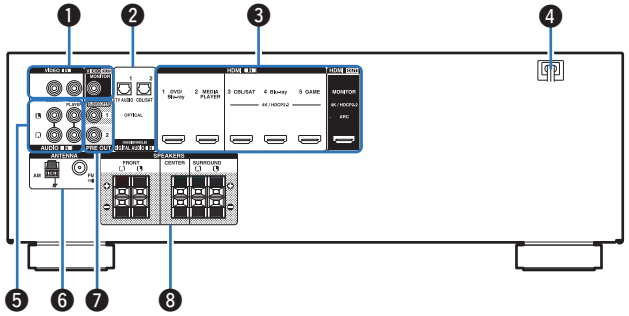
❼ **インフォメーションディスプレイ**
入力ソース名、サウンドモード、設定値などを表示します。

❽ **入力信号表示**
入力信号によって点灯します。(☞83 ページ)

リアパネル



詳しくは、次のページをご覧ください。



❶ ビデオ端子(VIDEO)
ビデオ端子付きの機器を接続します。
- 「接続 3:HDMI 端子がないテレビ」(☞28 ページ)
- 「セットトップボックスを接続する(衛星放送チューナー/ケーブルテレビチューナー)」(☞30 ページ)

❷ デジタルオーディオ端子(DIGITAL AUDIO)
デジタルオーディオ端子付きの機器を接続します。
- 「接続 2:HDMI 端子付き/ARC 機能非対応のテレビ」(☞27 ページ)
- 「接続 3:HDMI 端子がないテレビ」(☞28 ページ)
- 「セットトップボックスを接続する(衛星放送チューナー/ケーブルテレビチューナー)」(☞30 ページ)

❸ HDMI 端子
HDMI 端子付きの機器を接続します。
- 「接続 1:HDMI 端子付き/ARC 機能対応のテレビ」(☞26 ページ)
- 「接続 2:HDMI 端子付き/ARC 機能非対応のテレビ」(☞27 ページ)
- 「セットトップボックスを接続する(衛星放送チューナー/ケーブルテレビチューナー)」(☞30 ページ)
- 「DVD プレーヤーまたはブルーレイディスクプレーヤーを接続する」(☞31 ページ)
- 「ゲーム機やビデオカメラなどを接続する」(☞32 ページ)

❹ 電源コード(☞36 ページ)

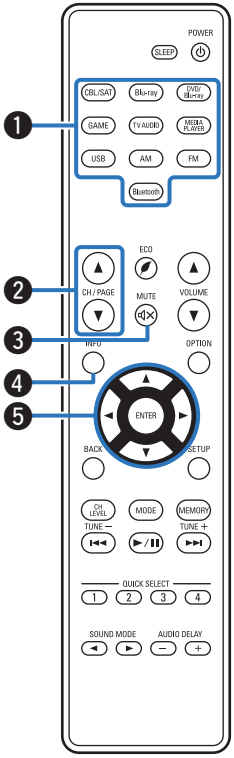
❺ アナログオーディオ端子(AUDIO)
アナログオーディオ端子付きの機器を接続します。(☞30 ページ)

❻ FM/AM アンテナ端子(ANTENNA)
FM アンテナや AM ループアンテナを接続します。(☞34 ページ)

❼ プリアウト端子(PRE OUT)
アンプ内蔵のサブウーハーを接続します。(☞23 ページ)

❽ スピーカー端子(SPEAKERS)
スピーカーを接続します。(☞22 ページ)

リモコン



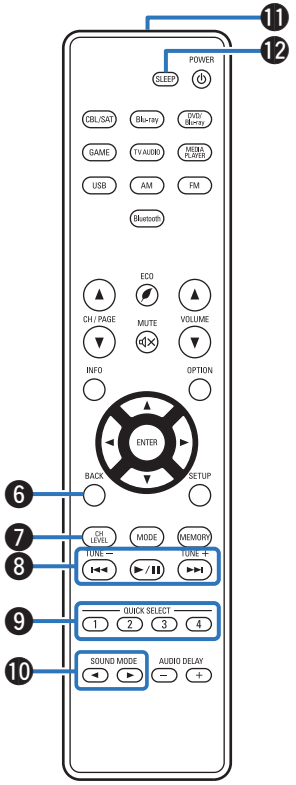
❶ 入力ソース選択ボタン
入力ソースを選択します。(☞38 ページ)

❷ チャンネル選択/ページ検索ボタン(CH/PAGE ▲▼)
プリセット登録した放送局の選択やページの切り替えをします。(☞50 ページ)

❸ ミュートボタン(MUTE 🔇)
消音します。(☞39 ページ)

❹ インフォメーションボタン(INFO)
ステータス情報をテレビ画面に表示します。(☞98 ページ)

❺ カーソルボタン(△▽◁▷)
項目を選択します。



⓺ バックボタン(BACK)
ひとつ前の画面に戻します。

⓻ チャンネルレベルボタン(CH LEVEL)
スピーカーの音量を調節します。(☞62 ページ)

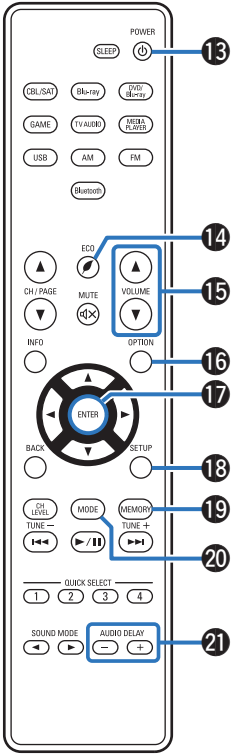
⓼ システムボタン
再生に関する操作をします。
選局ボタン(TUNE +, −)
FM 放送局または AM 放送局を選択します。(☞48 ページ)

⓽ クイックセレクトボタン(QUICK SELECT 1〜4)
それぞれのボタンに登録している入力ソース、音量およびサウンドモードなどの複数の設定をワンタッチで呼び出します。
(☞65 ページ)

⓾ サウンドモードボタン(◄ ►)
サウンドモードを選択します。(☞57 ページ)

⓫ リモコン信号送信窓
リモコンの信号を送信します。(☞6 ページ)

⓬ スリープタイマーボタン(SLEEP)
スリープタイマーを設定します。(☞63 ページ)



⓭ 電源ボタン(POWER ⏻)
電源をオン/オフします。(☞38 ページ)

⓮ エコモードボタン(ECO 🍃)
エコモードを切り替えます。(☞93 ページ)

⓯ 音量調節ボタン(▲▼)
音量を調節します。(☞39 ページ)

⓰ オプションボタン(OPTION)
テレビ画面にオプションメニューを表示します。

⓱ エンターボタン(ENTER)
選択した内容を確定します。

⓲ セットアップボタン(SETUP)
テレビ画面に設定メニューを表示します。(☞70 ページ)

⓳ プリセットメモリーボタン(MEMORY)
現在受信している放送局をプリセットします。(☞50 ページ)

⓴ チューニングモード切り替えボタン(MODE)
チューニングモードを切り替えます。(☞48 ページ)

㉑ オーディオディレイボタン(AUDIO DELAY +, -)
映像と音声のタイミングがずれているときに、音声の出力タイミングを調節します。(☞75 ページ)

■ 目次

スピーカーを接続する 20
テレビを接続する 25
再生機器を接続する 29
USB 端子に USB メモリーを接続する 33
FM アンテナや AM ループアンテナを接続する 34
電源コードを接続する 36

ご注意

- すべての接続が終わるまで電源プラグをコンセントに差し込まないでください。ただし、“セットアップアシスタント”（別冊の“かんたんスタートガイド”の 7 ページ）メニューを操作中は“セットアップアシスタント”メニューの指示に従って接続してください。（“セットアップアシスタント”メニューを操作中、入出力端子は通電しません。）
- 接続ケーブルは、電源コードと一緒に束ねないでください。雑音の原因となることがあります。

■ 接続に使用するケーブル

接続する機器に合わせて、必要なケーブルを準備してください。

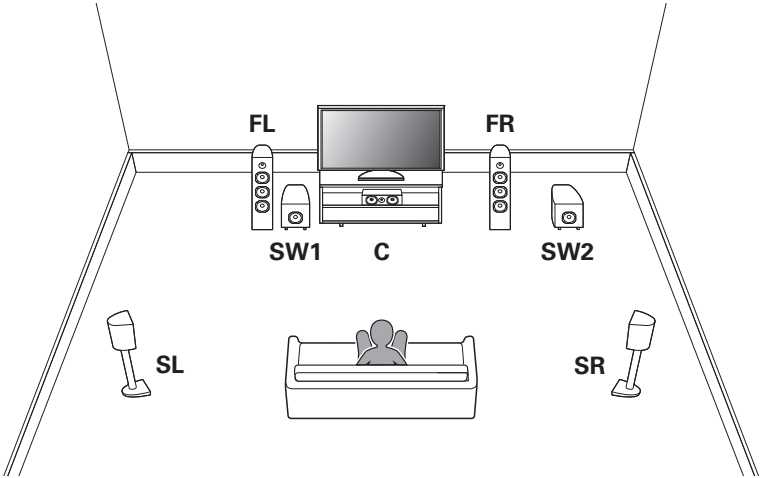
スピーカーケーブル	
サブウーハーケーブル	
HDMI ケーブル	
ビデオケーブル	
光伝送ケーブル	
オーディオケーブル	

スピーカーを接続する

スピーカーを設置し、本機にスピーカーを接続します。(「スピーカーを設置する」(☞20 ページ)、「スピーカーを接続する」(☞22 ページ))

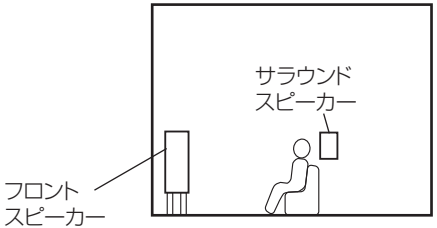
スピーカーを設置する

ご使用になるスピーカーの本数に応じてスピーカーシステムを決定し、各スピーカーおよびサブウーハーを部屋に設置します。
例として、代表的な設置方法を説明します。



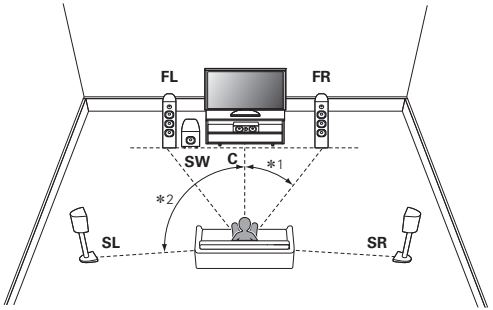
FL/FR (フロントスピーカー左/右):	フロント左右スピーカーは視聴位置から前方の等距離に設置します。各スピーカーとテレビの間の距離は同じにしてください。
C (センタースピーカー):	センタースピーカーはフロント左右スピーカーの中間に設置します。テレビの上または下側に設置してください。
SL/SR (サラウンドスピーカー左/右):	サラウンド左右スピーカーは視聴位置から左右の等距離に設置します。
SW 1/2 (サブウーハー):	サブウーハーは、フロントスピーカーの近くの設置可能な場所に設置します。サブウーハーを 2 台使用する場合は、部屋の前方に左右非対称となるように設置してください。

- 各スピーカーを設置する高さは、次のイラストを目安にしてください。ただし、正確に合わせる必要はありません。



【側面から見た図】

■ 5.1 チャンネルのスピーカーを設置するとき



*1 22°～30° *2 120°

スピーカーを接続する

部屋に設置したスピーカーを本機に接続します。
ここでは例として、代表的な接続方法を説明します。

ご注意

- スピーカーを接続する前に、本機の電源プラグをコンセントから抜いてください。また、サブウーハーの電源を切ってください。
- スピーカーケーブルの芯線が、スピーカー端子からはみ出さないように接続してください。芯線がリアパネルやねじに接触したり、＋側と－側が接触したりすると、保護回路が動作します。(「保護回路」(☞129 ページ))
- 通電中は、絶対にスピーカー端子に触れないでください。感電する場合があります。ただし、“セットアップアシスタント”(別冊の“かんたんスタートガイド”の 7 ページ)メニューを操作中は“セットアップアシスタント”メニューの指示に従って接続してください。(“セットアップアシスタント”メニューを操作中、スピーカー端子は通電しません。)
- スピーカーはインピーダンスが 6～16Ω のものを使用してください。

■ スピーカーケーブルを接続する

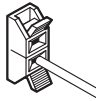
本機と接続するスピーカーの左チャンネル(L)、右チャンネル(R)、＋(赤)、－(黒)をよく確認して、同じ極性を接続してください。

1 スピーカーケーブル先端の被覆を 10mm 程度はがし、芯線をしっかりよじるか、端末処理をおこなう。

2 スピーカー端子のレバーを押す。

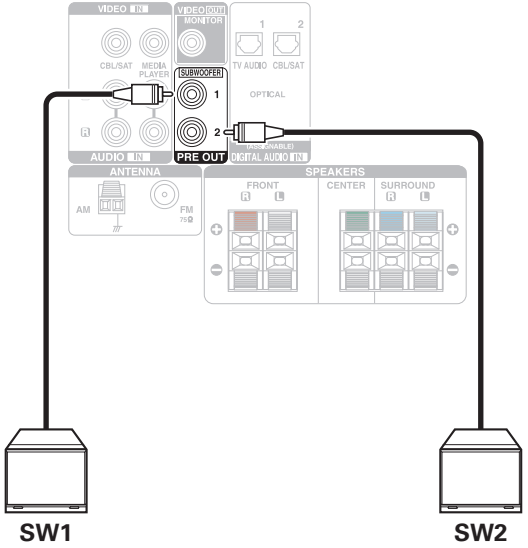
3 スピーカー端子のレバーを押しながら、ケーブルの芯線をスピーカー端子の根元に差し込む。

4 スピーカー端子のレバーから指を離す。



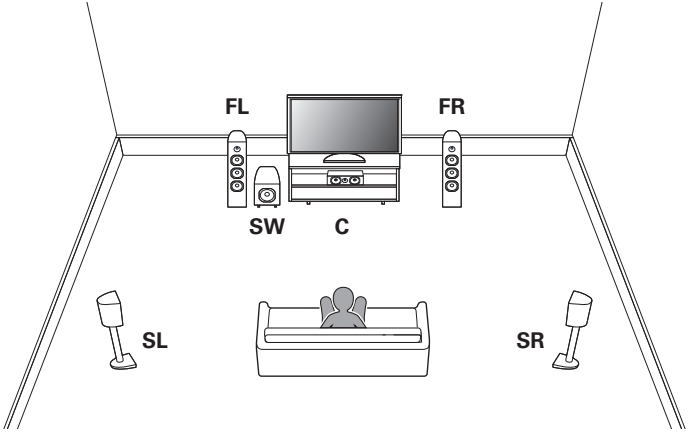
■ サブウーハーを接続する

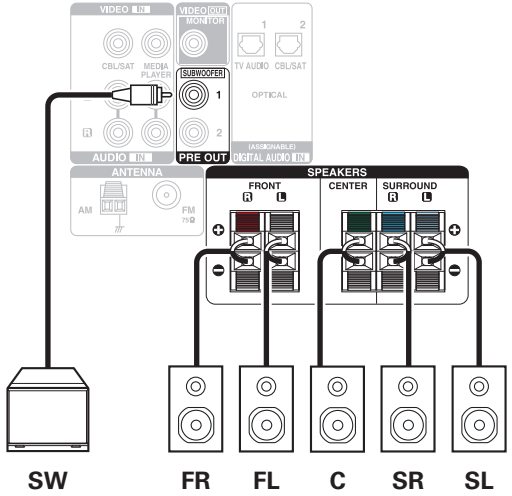
サブウーハーケーブルを使用して、サブウーハーと接続します。
本機にはサブウーハーを 2 台接続できます。
それぞれのサブウーハー端子からは、同じ信号を出力します。



標準的なスピーカーの構成と接続

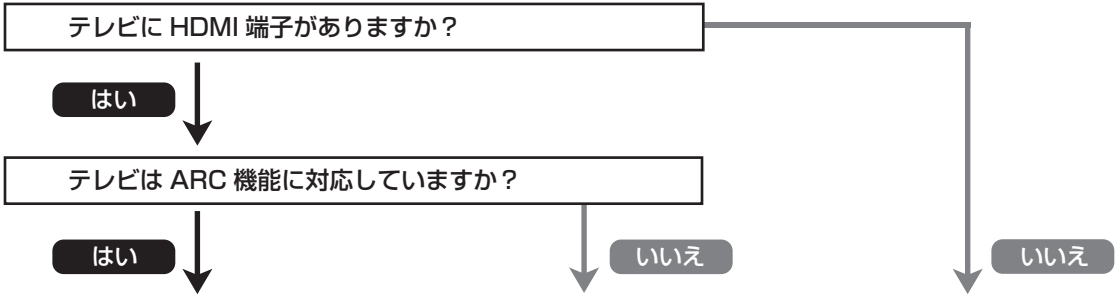
サラウンドの基本となる 5.1 チャンネルのシステムです。
対応しているサウンドモードの代表として、Dolby Pro Logic II があります。





テレビを接続する

本機にテレビを接続し、本機に入力された映像をテレビに出力します。また、テレビの音声を本機で楽しむこともできます。
接続方法は、テレビに装備されている端子や機能により異なります。
ARC(Audio Return Channel)機能は、HDMI ケーブルを経由してテレビの音声信号を伝送し、本機でテレビの音声を再生する機能です。



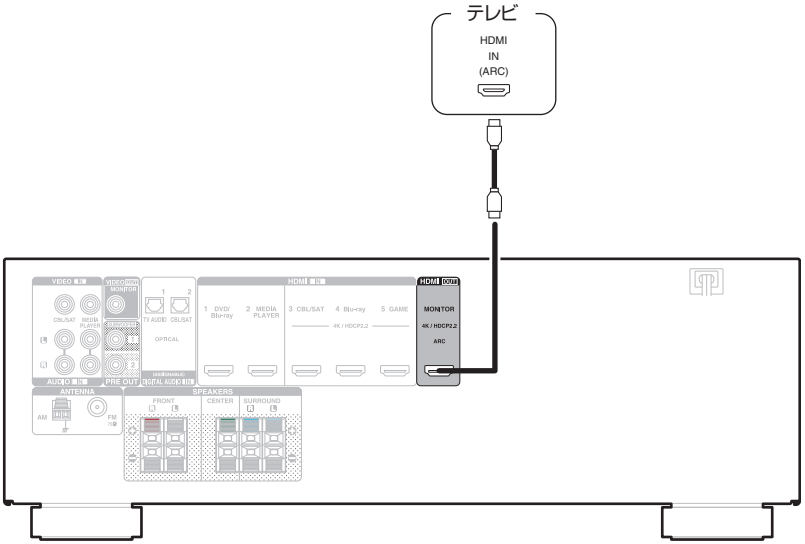
「接続 1:HDMI 端子付き/ARC 機能対応のテレビ」
(☞26 ページ)

「接続 2:HDMI 端子付き/ARC 機能非対応のテレビ」
(☞27 ページ)

「接続 3:HDMI 端子がないテレビ」
(☞28 ページ)

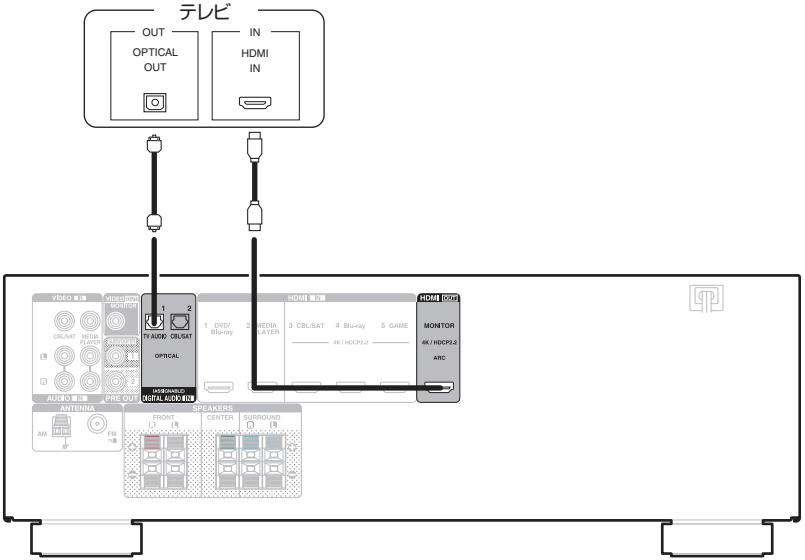
接続 1:HDMI 端子付き/ARC 機能対応のテレビ

HDMI ケーブルを使用して、本機に ARC 機能対応のテレビを接続します。
ARC 機能対応のテレビを使用する場合は、メニューの“HDMI コントロール”を“オン”に設定してください。(☞79 ページ)



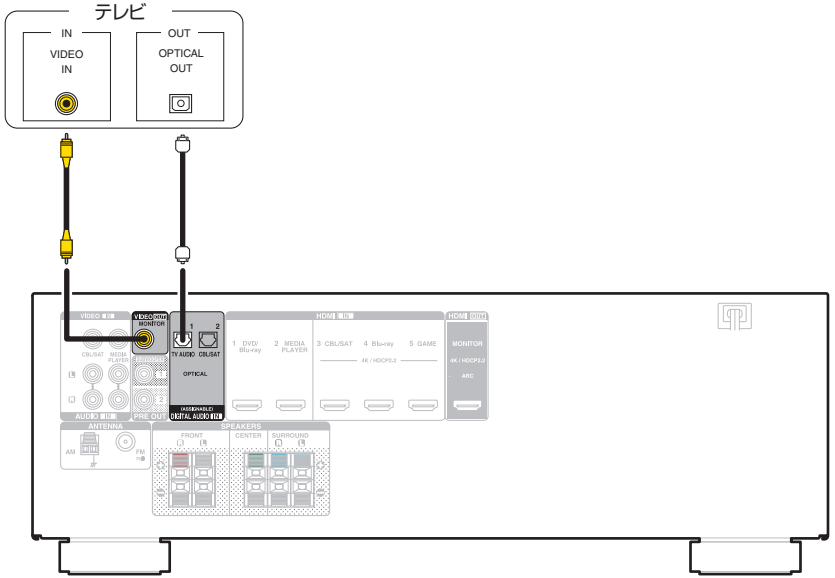
接続 2:HDMI 端子付き/ARC 機能非対応のテレビ

HDMI ケーブルを使用して、本機にテレビを接続します。
本機を経由してテレビの音声を聴く場合は、光伝送ケーブルを使用して本機にテレビを接続します。



接続 3:HDMI 端子がないテレビ

ビデオケーブルを使用して、本機にテレビを接続します。
本機を経由してテレビの音声を聴く場合は、光伝送ケーブルを使用して本機にテレビを接続します。



再生機器を接続する

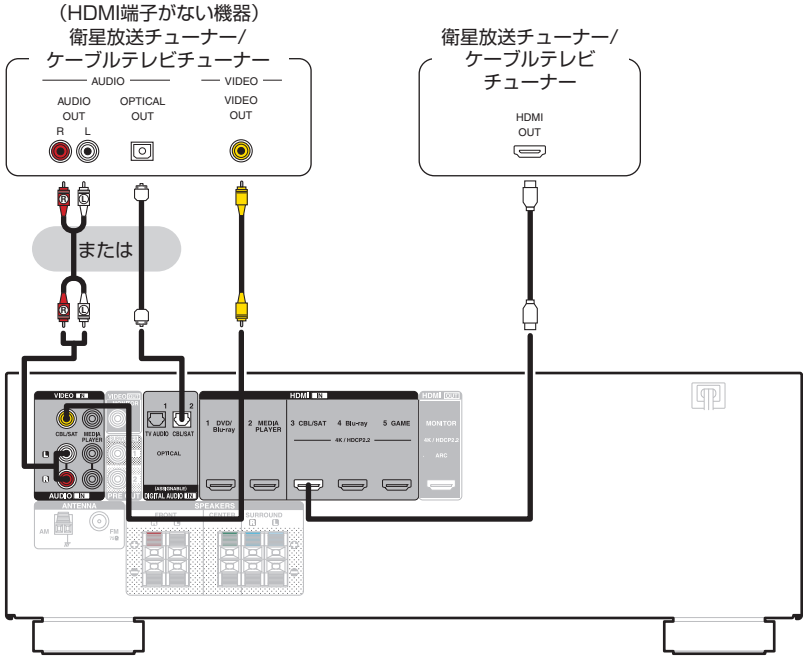
本機には 2 種類(HDMI、ビデオ)の映像入力端子と、3 種類(HDMI、デジタルオーディオ、オーディオ)の音声入力端子があります。
本機の入力端子は、接続する機器に装備されている端子に合わせて選択してください。
本機と接続する機器に HDMI 端子がある場合には、HDMI ケーブルでの接続をおすすめします。
HDMI 接続では、HDMI ケーブル 1 本で音声信号と映像信号を伝送できます。

- 「セットトップボックスを接続する(衛星放送チューナー/ケーブルテレビチューナー)」(☞30 ページ)
- 「DVD プレーヤーまたはブルーレイディスクプレーヤーを接続する」(☞31 ページ)
- 「ゲーム機やビデオカメラなどを接続する」(☞32 ページ)

- 本機の音声/映像入力端子に印字された入力ソースのとおりに機器を接続してください。
- 本機では、OPTICAL 1 端子および OPTICAL 2 端子に割り当てられている入力ソースを変更できます。入力端子に割り当てる入力ソースの変更のしかたは、“入力端子の割り当て”をご覧ください。(☞82 ページ)
- 本機に入力した音声信号を HDMI 接続しているテレビで再生したい場合は、メニューの“HDMI オーディオ出力”を“テレビ”に設定してください。(☞78 ページ)
- HDCP 2.2 で著作権保護されているコンテンツを楽しむ場合は、HDCP 2.2 に対応した再生機器とテレビをご使用ください。
- 4K のコンテンツや HDCP 2.2 で著作権保護されたコンテンツを楽しむ場合は、HDMI 3、HDMI 4 または HDMI 5 の入力端子に接続してください。

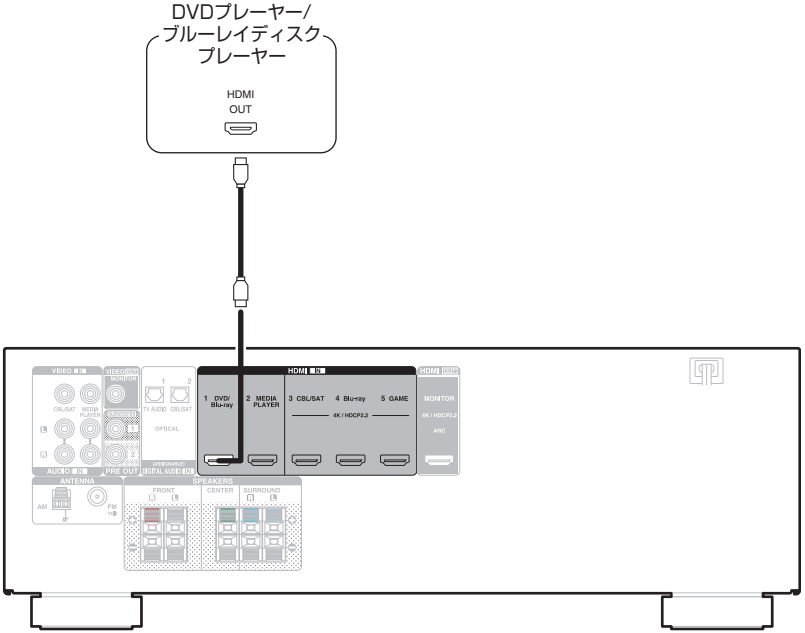
セットトップボックスを接続する(衛星放送チューナー/ケーブルテレビチューナー)

衛星放送チューナーやケーブルテレビチューナーの接続例です。
本機の入力端子は、接続する機器に装備されている端子に合わせて選択してください。



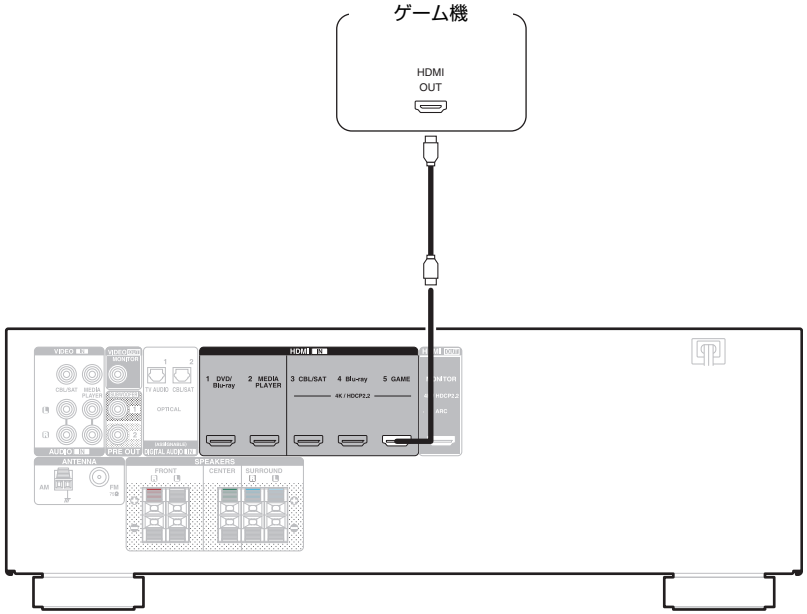
DVD プレーヤーまたはブルーレイディスクプレーヤーを接続する

DVD プレーヤーまたはブルーレイディスクプレーヤーの接続例です。
4K/HDCP 2.2 対応のプレーヤーを接続する場合は、HDMI 3、HDMI 4 または HDMI 5 入力端子に接続してください。



ゲーム機やビデオカメラなどを接続する

ゲーム機の接続例です。
この端子には、ゲーム機やビデオカメラなどの再生機器を接続します。



USB端子にUSBメモリーを接続する

操作のしかたは、「USB メモリーを再生する」(☞40 ページ)をご覧ください。

- すべての USB メモリーに対して、動作および電源の供給を保証するものではありません。USB 接続タイプのポータブル HDD で、AC アダプターを接続して電源が供給できるタイプのものを使用する場合は、AC アダプターのご使用をおすすめします。

ご注意

- USB メモリーは USB ハブ経由では動作しません。
- 本機の USB 端子とパソコンを USB ケーブルで接続して使用することはできません。
- USB メモリーを接続するときに、延長ケーブルを使用しないでください。他の機器に電波障害を引き起こす場合があります。

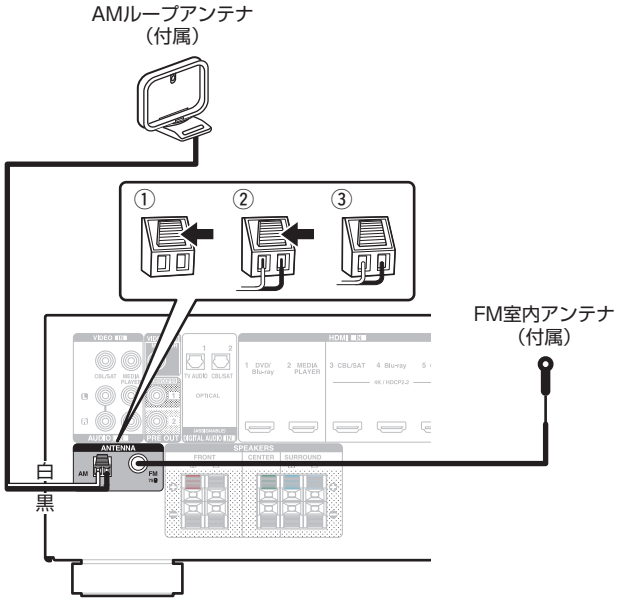
FMアンテナやAMループアンテナを接続する

本機にアンテナを接続してから放送を受信して、ノイズが最も少なく受信できるアンテナの位置をさがします。アンテナをその場所に接着テープなどで固定してください。(「FM 放送または AM 放送を聴く」(☞47 ページ))

- 放送を良好に受信できない場合は、屋外アンテナの設置をおすすめします。詳しくは、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

ご注意

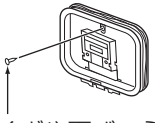
- AM ループアンテナ線がリアパネルやねじに接触していないか確認してください。



■ AM ループアンテナの使いかた

壁に掛けて使う

組み立てずにそのままお使いください。

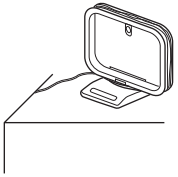


くぎや画びょうなど

置いて使う

図のように組み立ててお使いください。

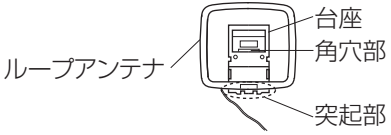
組み立てかたは、「AM ループアンテナの組み立てかた」をご覧ください。

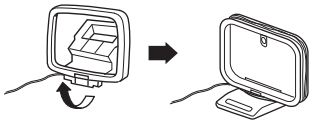


■ AM ループアンテナの組み立てかた

1 **台座部をループアンテナの後ろから、ループアンテナの下を通して、手前に曲げる。**

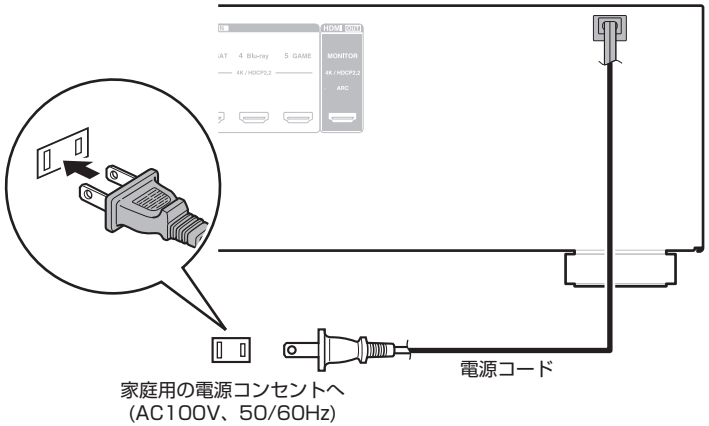
2 **突起部を台座の角穴部に、差し込む。**





電源コードを接続する

すべての接続が完了したら、電源プラグをコンセントに差し込みます。



■ 目次

基本操作

電源を入れる 38
入力ソースを選ぶ 38
音量を調節する 39
一時的に音を消す(ミューティング) 39
サウンドモードを選ぶ 57

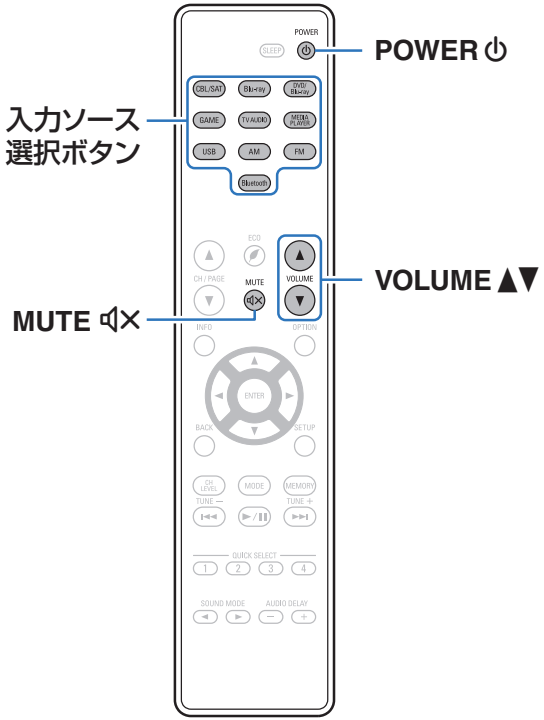
機器を再生する

DVD プレーヤーやブルーレイディスクプレーヤーを再生する 39
USB メモリーを再生する 40
Bluetooth 機器の音楽を聴く 42
FM 放送または AM 放送を聴く 47

便利な機能

便利な機能 52
HDMI コントロール機能 61
入力ソースに合わせて各チャンネルの音量を調節する(チャンネルレベル調節) 62
スリープタイマー機能 63
クイックセレクトプラス機能 65

基本操作



電源を入れる

1 **POWER ⏻ を押して、電源を入れる。**

- 電源がスタンバイ状態のときに入力ソース選択ボタンを押しても、電源がオンになります。
- 本体の ⏻ を押しても電源を入れることができます。

入力ソースを選ぶ

1 **再生する入力ソース選択ボタンを押す。**
入力ソースをダイレクトに選択できます。

- 本体の SOURCE SELECT を回しても、入力ソースを選択できます。

音量を調節する

1 VOLUME ▲▼ を押して、音量を調節する。

- 入力信号やチャンネルレベルの設定などにより、調節できる範囲が異なります。
- 本体の MASTER VOLUME を回しても、音量を調節できます。

一時的に音を消す（ミューティング）

1 MUTE 🔇を押す。
- ディスプレイの MUTE 表示が点滅します。
- テレビ画面に🔇を表示します。

- メニューの“ミューティングレベル”で音量の減衰量を設定できます。(☞76 ページ)
- ミューティングを解除するときは、音量を調節するか、もう一度 MUTE 🔇を押してください。

DVD プレーヤーやブルーレイディスクプレーヤーを再生する

ここでは、DVD プレーヤーやブルーレイディスクプレーヤーの再生のしかたを例に説明します。

1 再生の準備をする。
① テレビ、サブウーハーおよびプレーヤーの電源を入れる。
② テレビの入力を本機の入力に設定する。

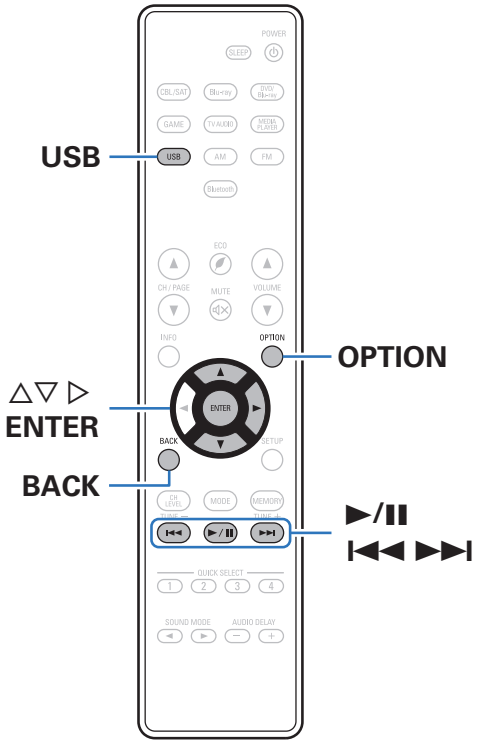
2 POWER ⏻ を押して、本機の電源を入れる。

3 DVD/Blu-ray（4K 非対応のプレーヤーの場合）または Blu-ray（4K 対応のプレーヤーの場合）を押して、再生するプレーヤーの入力ソースに切り替える。

4 DVD プレーヤーまたはブルーレイディスクプレーヤーを再生する。

■ サラウンド再生をする(☞57 ページ)

USB メモリーを再生する

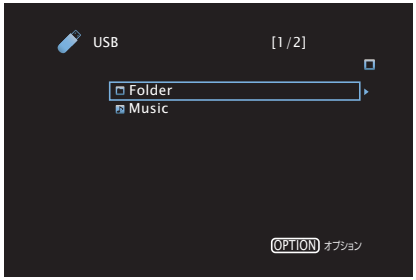


- USB メモリーに保存されている音楽ファイルを再生できます。
- 本機は、マスストレージクラスに対応している USB メモリーのみ再生できます。
- USB メモリーは、FAT16 または FAT32 フォーマットに対応しています。
- 本機で再生できる音声フォーマットの種類は、次のとおりです。詳しくは、“USB メモリーの再生について”をご覧ください。(☞119 ページ)
  - WMA
  - MP3
  - WAV
  - MPEG-4 AAC
  - FLAC

USB メモリーに保存されているファイルを再生する

1 USB メモリーを本機の USB 端子に接続する。
(☞33 ページ)

2 USB を押して、入力ソースを“USB”に切り替える。



3 △▽▷を押して再生したいファイルを選び、ENTER を押す。
再生をはじめます。

操作ボタン	機能
▶/❚❚	再生/一時停止
⏮ ⏭	前の曲にスキップ/次の曲にスキップ
	(長押し)早戻し/早送り
ENTER	再生/一時停止
	(長押し)停止
△▽	前の曲にスキップ/次の曲にスキップ
	(長押し)早戻し/早送り
PAGE▲▼	リストを表示中に、前のページへ移動/次のページへ移動

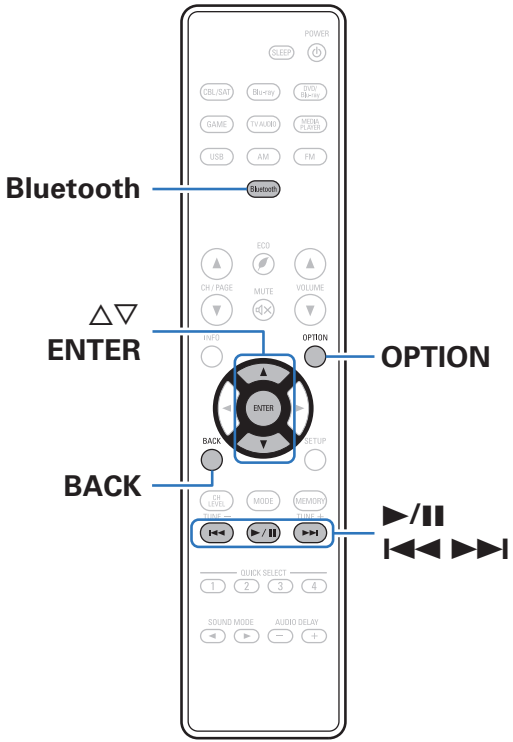
ご注意

- USB メモリーを本機と接続して使用しているときに、万一 USB メモリーのデータが消失または損傷した場合、当社は一切責任を負いません。

■ オプションメニューでできる操作

- 「リピート再生をする(リピート)」(☞53 ページ)
- 「ランダム再生をする(ランダム)」(☞53 ページ)
- 「トーンを調節する(トーンコントロール)」(☞54 ページ)
- 「音声の再生中にお好みの映像をモニターに映し出す(ビデオセレクト)」(☞56 ページ)

Bluetooth 機器の音楽を聴く



スマートフォンやデジタル音楽プレーヤーなどの Bluetooth 機器と本機をペアリングして接続すると、Bluetooth 機器の音楽ファイルをワイヤレスで楽しむことができます。
約 10m の範囲内で通信できます。

ご注意

- Bluetooth 機器側の音楽を再生するには、Bluetooth 機器側が A2DP プロファイルをサポートしている必要があります。

Bluetooth 機器の音楽を聴く

Bluetooth 機器の音楽を本機で楽しむときは、あらかじめご使用になる Bluetooth 機器と本機をペアリングしてください。
一度ペアリングすれば、再度ペアリングする必要はありません。

1 Bluetooth を押して、入力ソースを“Bluetooth”に切り替える。

はじめてご使用になる場合は、自動的にペアリングモードになり、本機のディスプレイに“Pairing...”を表示します。

2 Bluetooth 機器の Bluetooth 機能を有効にする。

3 Bluetooth 機器の画面に表示された機器の一覧に本機の名称が表示されたら、本機を選ぶ。

本機のディスプレイに“Pairing”が表示されている間に、Bluetooth 機器の接続操作をおこなってください。
また、Bluetooth 機器の接続操作は、本機に近い距離（1m 程度）でおこなってください。

4 Bluetooth 機器のアプリを使用して音楽を再生する。

- 本機のリモコンでも Bluetooth 機器を操作できます。
- 次回以降入力ソースを“Bluetooth”に切り替えた場合、本機は自動的に最後に接続していた Bluetooth 機器に接続します。

- Bluetooth 機器側の画面でパスキーを要求された場合は、“0000”を入力してください。

操作ボタン	機能
▶/❚❚	再生/一時停止
⏮ ⏭	前の曲にスキップ/次の曲にスキップ
	(長押し)早戻し/早送り
ENTER	再生/一時停止
	(長押し)停止
△ ▽	前の曲にスキップ/次の曲にスキップ
	(長押し)早戻し/早送り

- 本体のディスプレイには、半角英数字と一部の記号のみ表示することができます。対応していない文字は “.(ピリオド)” に置き換えて表示します。

ご注意

- 本機のリモコンで操作するには、Bluetooth 機器側が AVRCP プロファイルに対応している必要があります。
- すべての Bluetooth 機器に対するリモコン操作を保証するものではありません。
- Bluetooth 機器によっては、本機は Bluetooth 機器側で設定している音量と連動して音声を出力します。

■ オプションメニューでできる操作

- 「2 台目以降の Bluetooth 機器とペアリングする」(☞45 ページ)
- 「リピート再生をする(リピート)」(☞53 ページ)
- 「ランダム再生をする(ランダム)」(☞53 ページ)
- 「トーンを調節する(トーンコントロール)」(☞54 ページ)
- 「音声の再生中にお好みの映像をモニターに映し出す(ビデオセレクト)」(☞56 ページ)

2台目以降のBluetooth機器とペアリングする

Bluetooth 機器と本機をペアリングします。

1 **Bluetooth 機器の Bluetooth 機能を有効にする。**

2 **入力ソースが“Bluetooth”のときに、OPTION を押す。**
オプションメニュー画面を表示します。

3 **△▽ を押して“ペアリングモード”を選び、ENTER を押す。**
ペアリングモードになります。

4 **Bluetooth 機器の画面に表示された機器の一覧に本機の名称が表示されたら、本機を選ぶ。**

- 本機は最大 8 台の Bluetooth 機器とペアリングできます。9 台目の Bluetooth 機器をペアリングすると、一番古い機器に置き換えて登録します。
- Bluetooth 機器側の画面でパスキーを要求された場合は、“0000”を入力してください。
- リモコンの Bluetooth を 3 秒以上押しても、ペアリングモードになります。

Bluetooth 機器から本機に再接続する

ペアリングが済んでいれば、本体の操作をせずに接続することができます。
再生する Bluetooth 機器を切り替える場合にもこの操作をおこなってください。

1 **現在接続している Bluetooth 機器がある場合、その機器の Bluetooth 設定をオフして接続を切断する。**

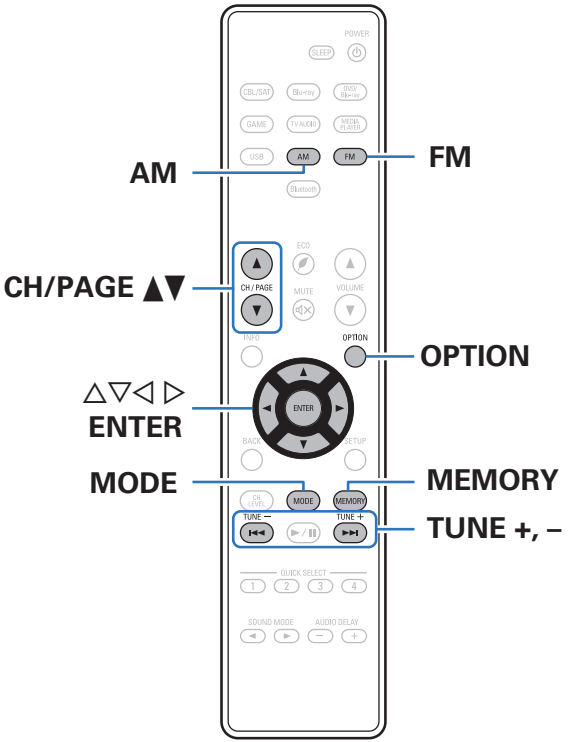
2 **接続したい Bluetooth 機器の Bluetooth 設定をオンにする。**

3 **お使いの Bluetooth 機器の Bluetooth 機器リストから本機を選択する。**

4 **Bluetooth 機器のアプリを使用して音楽を再生する。**

- 本機の電源がオンのときに Bluetooth 機器の接続操作をおこなうと、自動的に入力ソースが“Bluetooth”に切り替わります。
- 本機の“Bluetooth スタンバイ”設定を“オン”なおかつ“自動入力ソース切り替え”設定を“オン”にし、本機がスタンバイ状態のときに Bluetooth 機器から接続操作をおこなうと、本機の電源は自動的にオンになります。(☞95 ページ)

FM放送またはAM放送を聴く



本機に内蔵のチューナーを使用して、FM 放送および AM 放送を聴くことができます。
事前に必ず FM アンテナおよび AM ループアンテナを本機に接続してください。

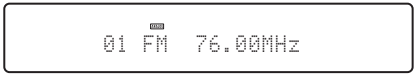
FM 放送または AM 放送を聴く

1 アンテナを接続する。(「FM アンテナや AM ループアンテナを接続する」(☞34 ページ))

2 FM または AM を押して、入力ソースを“FM”または“AM”に切り替える。

【 テレビ画面 】

【 本体のディスプレイ 】



3 MODE を押してチューニングモードを選ぶ。

AUTO (お買い上げ時の設定):	自動的に受信できる放送局を探して受信するモードです。
MANUAL:	ボタン操作で 1 ステップずつ周波数を切り替えて受信するモードです。

4 TUNE +または TUNE -を押して、聴きたい放送局を選ぶ。

受信可能な放送局が見つかるまでスキャンします。放送局が見つかると自動的にスキャンを停止して受信します。

- “AUTO”モードでは、受信状態が良くない放送局は受信できません。その場合は“MANUAL”モードで受信してください。
- 本体の TUNE +または TUNE -を押しても、放送局をスキャンすることができます。

操作ボタン	機能
CH/PAGE ▲▼	プリセット登録した放送局の選択
MODE	チューニングモードの切り替え
MEMORY	プリセット登録
TUNE +, -	放送局の選択(アップ/ダウン)

■ オプションメニューでできる操作

- 「自動で放送局を選局しプリセットする(オートプリセット)」(☞49 ページ)
- 「プリセットした放送局をスキップする(プリセットスキップ)」(☞51 ページ)
- 「トーンを調節する(トーンコントロール)」(☞54 ページ)
- 「音声の再生中にお好みの映像をモニターに映し出す(ビデオセレクト)」(☞56 ページ)

自動で放送局を選局しプリセットする(オートプリセット)

自動で最大 56 局までプリセットできます。

1 入力ソースが"FM"のときに、OPTION を押す。

オプションメニュー画面を表示します。

2 △▽ を押して"オートプリセット"を選び、ENTER を押す。

自動で放送局を受信し、プリセットをはじめます。

- プリセットが完了すると、"完了しました"を約 5 秒間表示し、オプションメニュー画面が消灯します。

- プリセットメモリーは上書きされます。

聴いている放送局をプリセットする(プリセットに登録)

手動でお好みの放送局を選局し、プリセットします。
最大 56 局までプリセットできます。

1 プリセットしたい放送局を受信する。(「FM 放送または AM 放送を聴く」(☞48 ページ))

2 MEMORY を押す。

3 △▽ を押して、プリセットしたいチャンネルを選ぶ。

4 MEMORY を押す。
現在受信している放送局をプリセットします。
- 続けて他の放送局をプリセットする場合は、手順 1～4 をおこなってください。

チャンネル	お買い上げ時の設定
1～8	76.00 / 83.00 / 89.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00MHz
9～16	90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00MHz
17～24	90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00MHz
25～32	90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00MHz
33～40	90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00MHz
41～48	90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00MHz
49～56	90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00MHz

プリセットした放送局を聴く

1 CH/PAGE ▲▼ を押して、プリセットした放送局を選ぶ。

- 本体の TUNER PRESET CH +または TUNER PRESET CH -を押しても、プリセットした放送局を選択できます。

プリセットした放送局をスキップする（プリセットスキップ）

オートプリセットメモリーをおこなうと、受信できる放送局をすべてメモリーします。不要なメモリーをスキップさせることで選局しやすくなります。

1 **入力ソースが“FM”または“AM”のときに、OPTIONを押す。**
オプションメニュー画面を表示します。

2 **△▽を押して“プリセットスキップ”を選び、ENTERを押す。**
“プリセットスキップ”画面を表示します。

3 **△▽を押して、スキップしたい放送局のグループを選ぶ。**
選択したグループ“プリセット ＊-＊”に含まれるすべての放送局をスキップします。
（＊は選択しているグループ番号です。）

4 **◁▷を押して、“スキップ”を選ぶ。**
選択した放送局をスキップします。

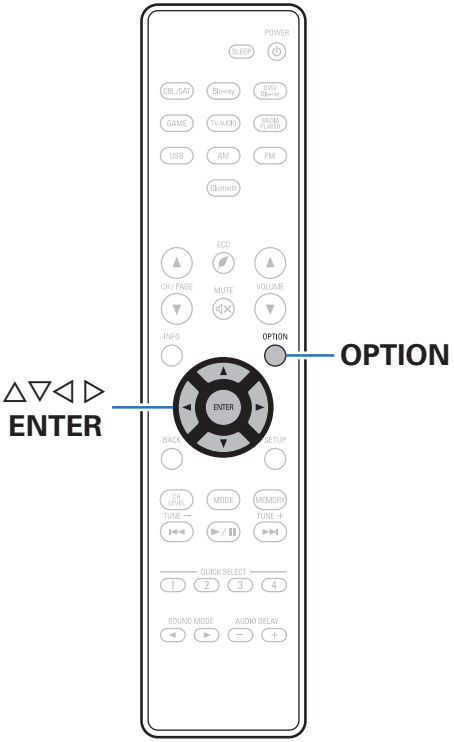
プリセットスキップを解除する

1 **“プリセットスキップ”画面を表示中に△▽を押して、スキップを解除したい放送局のグループを選ぶ。**

2 **◁▷を押して、“オン”を選ぶ。**
スキップを解除します。

便利な機能

ここでは、各入力ソースで使用できる便利な機能の操作方法を説明します。



リピート再生をする(リピート)

❑ 対応する入力ソース:USB / Bluetooth

1 コンテンツの再生中に OPTION を押す。
オプションメニュー画面を表示します。

2 △▽ を押して“リピート”を選び、ENTER を押す。

3 ◁▷ を押して、リピート再生モードを選ぶ。

オフ (お買い上げ時の設定):	リピート再生モードを解除します。
1 曲:	再生中の曲をリピート再生します。
すべて:	現在再生中のフォルダ内のすべての曲をリピート再生します。(入力ソースが“Bluetooth”のとき)
フォルダー:	現在再生中のフォルダ内のすべての曲をリピート再生します。(入力ソースが“USB”のとき)

4 ENTER を押す。
再生画面に戻ります。

- “リピート”の設定は、入力ソースごとに記憶します。

ランダム再生をする(ランダム)

❑ 対応する入力ソース:USB / Bluetooth

1 コンテンツの再生中に OPTION を押す。
オプションメニュー画面を表示します。

2 △▽ を押して“ランダム”を選び、ENTER を押す。

3 ◁▷ を押して、ランダム再生モードを選ぶ。

オフ (お買い上げ時の設定):	ランダム再生モードを解除します。
オン:	現在再生中のフォルダ内にあるすべての曲をランダムに再生します。

4 ENTER を押す。
再生画面に戻ります。

- ランダム再生すると、曲の再生が終わるたびにフォルダ内の曲からランダムに再生する曲を選択します。そのため、同じ曲を続けて再生する場合があります。
- “ランダム”の設定は、入力ソースごとに記憶します。

トーンを調節する(トーンコントロール)

トーンを調節します。

1 **OPTION を押す。**

オプションメニュー画面を表示します。

2 **△▽ を押して“トーンコントロール”を選び、ENTER を押す。**

“トーンコントロール”画面を表示します。

3 **◁▷ を押して、トーンコントロール機能のオン/オフを設定する。**

オン:	低音や高音のトーンを調節できます。
オフ (お買い上げ時の設定):	トーンを調節せずに再生します。

4 **手順 3 で“オン”を選び、▽ を押して調節する音域を選ぶ。**

低音:	低音を調節します。
高音:	高音を調節します。

5 **◁▷ を押してトーンを調節し、ENTER を押す。**

-6 dB～+6 dB(お買い上げ時の設定:0 dB)

- “トーンコントロール”の設定は、入力ソースごとに記憶します。
- サウンドモードが“Direct”のときは設定できません。
- 音声信号が入力されていない場合、またはメニューの“HDMI オーディオ出力”の設定が“テレビ”の場合は設定できません。(☞78 ページ)

深夜のリスニング音量を最適化する(ナイトモード)

ダイナミックレンジ(静かな音と大きな音のレベル差)を圧縮します。
ドルビーデジタル信号を入力しているときに設定できます。

1 **OPTION を押す。**
オプションメニュー画面を表示します。

2 **△▽ を押して"ナイトモード"を選び、ENTER を押す。**
ナイトモード設定画面を表示します。

3 **◁▷ を押して"ナイトモード"を選び、ENTER を押す。**

弱:	ダイナミックレンジの圧縮量を低く設定します。
中:	ダイナミックレンジの圧縮量を"弱"と"強"の中間に設定します。
強:	ダイナミックレンジの圧縮量を高く設定します。
オート:	入力ソースに合わせて、ダイナミックレンジの圧縮量を自動で調節します。
オフ (お買い上げ時の設定):	ナイトモードを設定しません。

- "オート"は、Dolby TrueHD 信号を入力しているときに設定できます。
- お買い上げ時は"オフ"に設定されています。入力信号が Dolby TrueHD のときのお買い上げ時の設定は"オート"です。

音声の再生中にお好みの映像をモニターに映し出す(ビデオセレクト)

本機では音声の再生中に別のソースの映像をテレビに映し出します。入力ソースごとに設定できます。

❑ **対応する入力ソース:**
USB / FM / AM / Bluetooth

1 **音声の再生中に、OPTION を押す。**
オプションメニュー画面を表示します。

2 **△▽ を押して“ビデオセレクト”を選び、ENTER を押す。**

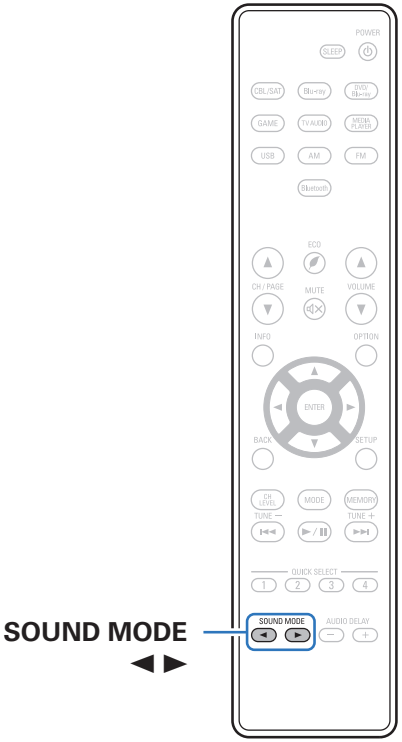
3 **◁▷ を押して、ビデオセレクトモードを選ぶ。**

オフ (お買い上げ時の設定):	ビデオセレクトモードが無効です。
オン:	ビデオセレクトモードが有効です。

4 **◁▷ を押して再生したい映像の入力ソースを選び、ENTER を押す。**

- “ビデオセレクト”の設定は、入力ソースごとに記憶します。

サウンドモードを選ぶ



本機ではさまざまなサラウンド再生やステレオ再生をお楽しみいただけます。
ブルーレイディスクや DVD はもちろん、デジタル放送の映画や音楽の多くのコンテンツには、マルチチャンネルの音声フォーマットが採用されています。
本機では、それらのマルチチャンネル音声フォーマットの再生に対応しています。また、2 チャンネルステレオ音声などのマルチチャンネル音声以外の音声フォーマットもサラウンド再生ができます。

- ディスクに収録されている音声フォーマットは、ディスクのジャケットをご覧ください。

サウンドモードを選ぶ

1 **SOUND MODE ◄► を押して、サウンドモードを選ぶ。**

- 前回選択したサウンドモードに対応していないコンテンツを再生した場合は、そのコンテンツにとって最もスタンダードなサウンドモードを自動的に選択します。

■ サウンドモードの種類について

ドルビーサウンドモード

サウンドモードの種類	説 明
Dolby PLⅡ	Dolby PLⅡ デコーダーを使用して、2 チャンネルソースを自然で臨場感のある 5.1 チャンネルのサラウンドサウンドで再生するモードです。
Dolby Digital	Dolby Digital で収録されたディスクの再生に適したモードです。
Dolby TrueHD	Dolby TrueHD で収録されたディスクの再生に適したモードです。
Dolby Digital Plus	Dolby Digital Plus で収録されたディスクの再生に適したモードです。

DTS サウンドモード

サウンドモードの種類	説 明
DTS Neo:6	DTS Neo:6 デコーダーを使用して、2 チャンネルソースを 5.1 チャンネルのサラウンドサウンドで再生するモードです。
DTS Surround	DTS で収録されたディスクの再生に適したモードです。
DTS 96/24	DTS 96/24 で収録されたディスクの再生に適したモードです。
DTS-HD	DTS-HD で収録されたディスクの再生に適したモードです。
DTS Express	DTS Express で収録されたディスクの再生に適したモードです。

PCM マルチチャンネルサウンドモード

サウンドモードの種類	説 明
Multi Ch In	このモードは、マルチチャンネルの PCM で収録されたディスクの再生に適したモードです。

AAC サウンドモード

サウンドモードの種類	説 明
MPEG2 AAC	このモードでは、地上デジタル放送や BS デジタル放送などで MPEG-2 AAC が配信されているときに選択できます。 MPEG-2 AAC により高音質の音楽番組やマルチチャンネル音声の映画など、臨場感あふれるサラウンド再生が楽しめます。

オリジナルサウンドモード

サウンドモードの種類	説 明
Multi Ch Stereo	ステレオサウンドをすべてのスピーカーで楽しむモードです。
Virtual	フロントスピーカーやヘッドホンでサラウンド効果を楽しむモードです。

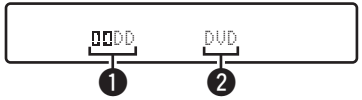
ステレオサウンドモード

サウンドモードの種類	説 明
Stereo	サラウンド処理をおこなわずに 2 チャンネルステレオ音声を再生するモードです。 • フロントスピーカー(左/右)とサブウーハーから音声を出力します。 • マルチチャンネル信号を入力しているときは、2 チャンネルの音声にダウンミックスして再生します。

ダイレクトサウンドモード

サウンドモードの種類	説 明
Direct	ソースに収録されている音声のまま再生するモードです。

■ ディスプレイの表示について



❶ 使用するデコーダーを表示します。

- Dolby Digital デコーダーの場合は、“DD”と表示します。
- Dolby Digital Plus デコーダーの場合は、“DD+”と表示します。

❷ 再生中の入力ソースを表示します。

HDMI コントロール機能

本機と HDMI コントロール機能対応のテレビやプレーヤーを HDMI ケーブルで接続し、各機器の HDMI コントロール機能の設定を有効にすると、機器間で相互に制御できます。

設定のしかた

1 本機の HDMI コントロール機能を有効にする。

メニューの“HDMI コントロール”を“オン”に設定してください。(☞79 ページ)

2 HDMI ケーブルで接続しているすべての機器の電源を入れる。

3 HDMI ケーブルで接続しているすべての機器の HDMI コントロール機能を有効にする。

- 接続している機器の設定については、各機器の取扱説明書をご覧ください。
- いずれかの機器の電源プラグを抜いた場合は、手順 2、3 をおこなってください。

4 テレビの入力を、本機に接続した HDMI 入力に切り替える。

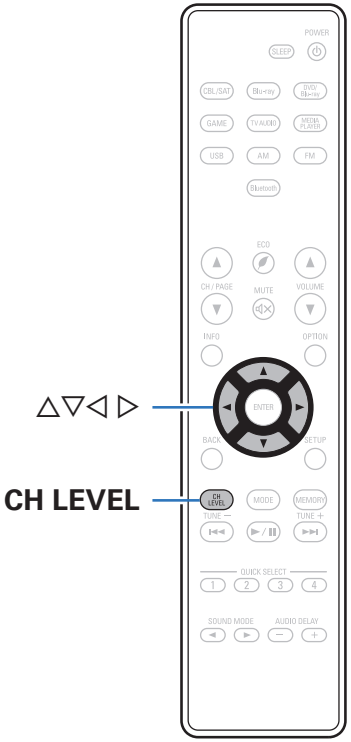
5 本機の入力ソースを切り替えて、HDMI 接続しているプレーヤーの映像が正しく映ることを確認する。

6 テレビの電源をスタンバイにすると、本機とプレーヤーの電源もスタンバイになることを確認する。

ご注意

- 接続しているテレビやプレーヤーによっては、動作しない機能があります。あらかじめ各機器の取扱説明書をご覧ください。

入力ソースに合わせて各チャンネルの音量を調節する(チャンネルレベル調節)



音楽を聴きながら、各チャンネルの音量を変更することができます。入力ソースごとに設定できます。

1 **CH LEVEL を押す。**
"チャンネルレベル調節"画面を表示します。

2 **△▽ を押して、調整したいチャンネルを選ぶ。**

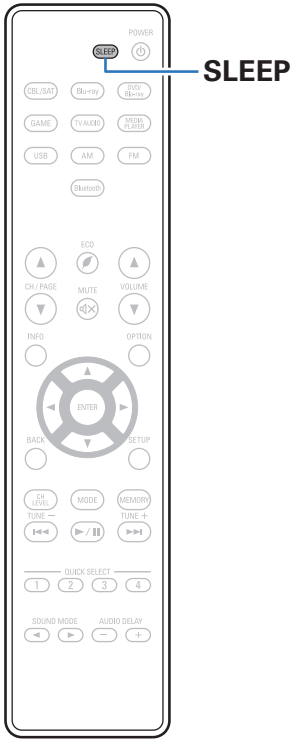
3 **◁▷ を押して、音量を調節する。**

-12.0 dB～+12.0 dB(お買い上げ時の設定:0.0 dB)

- 各チャンネルの調整値を"0.0dB"(お買い上げ時の設定)に戻したい場合は、"リセット"を選び ENTER を押してください。
- ヘッドホン接続時には、ヘッドホン用の音量を調節できます。
- "チャンネルレベル調節"の設定は、入力ソースごとに記憶します。
- 音声を出力しているスピーカーのみ設定できます。また、メニューの"HDMI オーディオ出力"の設定が"テレビ"の場合は設定できません。(☞78 ページ)

スリープタイマー機能

設定した時間が経過すると、自動的に電源をスタンバイにすることができます。視聴しながら、おやすみになるときに便利です。



スリープタイマーを設定する

1 **SLEEP を押して、スリープ時間を設定する。**

- ディスプレイの SLEEP 表示が点灯して、スリープタイマーがはじまります。
- スリープタイマーは、10～120 分の範囲で 10 分ごとに設定できます。

■ 残り時間を確認する

スリープタイマー中に SLEEP を押す。
ディスプレイに残り時間を表示します。

■ スリープタイマーを解除する

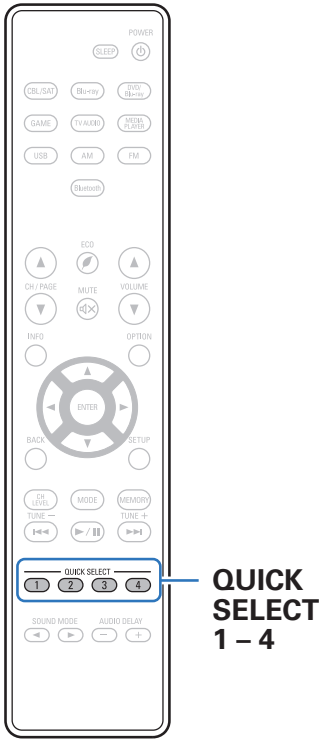
SLEEP を押して、“Off” を選ぶ。
ディスプレイの SLEEP 表示が消灯します。

- 本機の電源がスタンバイになると、スリープタイマーの設定を解除します。

ご注意

- スリープタイマー機能では、本機に接続した機器の電源は切れません。接続した機器の電源を切る場合は、接続した機器側でスリープタイマーの設定をおこなってください。

クイックセレクトプラス機能



QUICK SELECT 1～4 ボタンに入力ソース、音量レベル、サウンドモードの設定などを記憶できます。

次に再生するときは、登録してある QUICK SELECT ボタンを押すだけで、記憶しているさまざまな設定を一度に切り替えることができます。

よく使う設定を QUICK SELECT 1～4 ボタンに記憶させておくと、常に同じ再生環境を簡単に呼び出してお楽しみいただくことができます。

設定を呼び出す

1 **QUICK SELECT を押す。**

押したボタンに記憶している設定内容を呼び出します。

- お買い上げ時の入力ソースの設定は、次のとおりです。

ボタン	入力ソース
QUICK SELECT 1	CBL/SAT
QUICK SELECT 2	DVD/Blu-ray
QUICK SELECT 3	Game
QUICK SELECT 4	Bluetooth

- お買い上げ時の音量は、クイックセレクトプラス機能に記憶されていません。
  クイックセレクトプラス機能に音量を記憶したい場合は、「設定を変更する」を参照しておこなってください。(☞66 ページ)

設定を変更する

1 **次の内容を記憶させたい状態にする。**

① 入力ソース(☞38 ページ)
② 音量(☞39 ページ)
③ ビデオセレクトの設定(☞56 ページ)
④ サウンドモード(☞57 ページ)

2 **ディスプレイに“Quick∗ Memory”が表示されるまで、変更したい QUICK SELECT を長押しする。**

現在の設定を記憶します。
∗ は押された QUICK SELECT の数字を表示します。

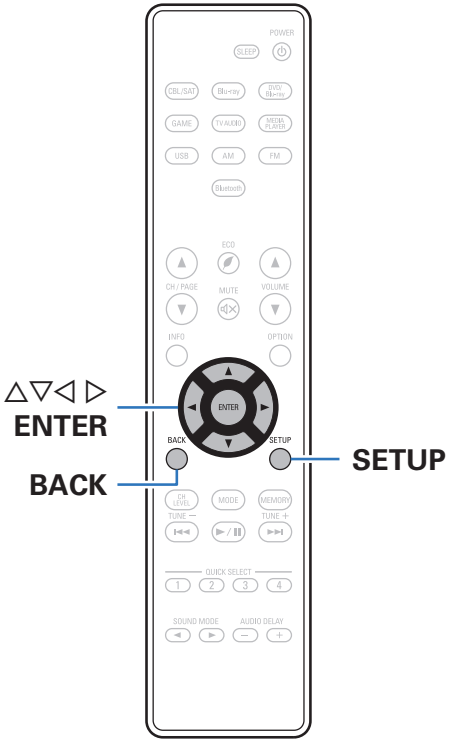
メニュー 一覧

メニューの操作をおこなうときは、本機にテレビを接続し、テレビ画面を見ながら操作してください。
本機のお買い上げ時の設定は、おすすめの設定にしてあります。ご使用のシステムやお好みに合わせて本機をカスタマイズすることができます。

設定項目	詳細項目	内 容	関連ページ
オーディオ	サラウンドパラメーター	音場効果を調節します。	71
	リストアラー	MP3 などの圧縮オーディオを再生するときに、低域や高域を拡張して、より豊かな再生をします。	74
	オーディオディレイ	映像と音声のタイミングがずれているときに、音声の出力タイミングを調節します。	75
	音量	音量に関する設定をします。	75
	バイリンガルモード	AAC ソースやドルビーデジタルの二重音声の出力内容を設定します。	76
	ルーム EQ	イコライザーを使用するかしないかを設定します。	77
ビデオ	HDMI オーディオ出力	HDMI の音声の出力先を設定します。	78
	HDMI パススルー	本機がスタンバイのときに、入力されている HDMI 信号を HDMI モニターへ出力するかどうかを設定します。	78
	パススルーソース	本機がスタンバイのときに、HDMI 信号を入力する HDMI 端子を設定します。	79
	HDMI コントロール	HDMI 接続した HDMI コントロール対応機器と連動して操作できます。	79
	ARC	ARC 機能を使用し、HDMI MONITOR 端子に接続されているテレビから、HDMI 経由でテレビの音声を受信するかどうかを設定します。	80
	TV Audio 切り替え	HDMI ケーブルで接続したテレビから、CEC コマンドを受信したとき、自動的に入力ソースを“TV Audio”に切り替えるかどうかを設定します。	80
	パワーオフコントロール	テレビの電源オフに連動して、本機の電源をスタンバイにします。	81

設定項目	詳細項目	内 容	関連ページ
入力ソース	**入力端子の割り当て**	入力端子の割り当てを変更します。	82
	ソースレベル	音声入力の再生レベルを補正します。	82
	オーディオ入力端子の選択	入力モードとデコードモードを設定します。	83
スピーカー	**オートセットアップ**	接続されたスピーカーやリスニングルームの音響特性を測定し、最適な設定を自動的におこないます。	84
	マニュアルセットアップ	スピーカーを手動で設定する場合や“オートセットアップ”で測定した内容を変更するときにおこなってください。	89

設定項目	詳細項目	内 容	関連ページ
一般	**言語**	テレビ画面に表示する言語を設定します。	93
	エコ設定	エコモードとオートスタンバイの省電力機能の設定をします。	93
	Bluetooth	Bluetooth に関する設定をします。	95
	フロントディスプレイ	本機のディスプレイの明るさを調節します。	96
	ファームウェア	ファームウェアをアップデートします。	96
	セットアップロック	設定した内容を変更できないようにロックします。	97
	初期化	各種設定内容がお買い上げ時の設定に戻ります。	97
セットアップアシスタント	**初めから設定を行う**	テレビ画面に表示されるガイダンスに沿って、基本的な設置/接続/設定を最初からおこないます。	別冊の「かんたんスタートガイド」の 7 ページ



メニュー操作のしかた

1 **SETUP を押す。**
テレビ画面にメニューを表示します。

2 **△▽ を押して設定または操作したいメニューを選び、ENTER を押す。**

3 **◁ ▷ を押して、お好みの設定に変更する。**

4 **ENTER を押して、設定を確定する。**
- 前の項目に戻るときは、BACK を押してください。
- メニューを終了するときは、メニュー表示中に SETUP を押してください。メニュー表示が消灯します。

オーディオ

音声に関する設定をします。

サラウンドパラメーター

サラウンド音声の音場効果をお好みにあわせて調節できます。調節できる項目(パラメーター)は、再生している信号や選択しているサウンドモードによって異なります。調節できる各項目については、「サウンドモードとパラメーター一覧表」(☞123 ページ)をご覧ください。

- 設定項目の中には再生停止中に設定できないものがあります。設定は再生中におこなってください。
- “サラウンドパラメーター”の設定は、サウンドモードごとに記憶します。

■ Mode

入力信号に合わせてサウンドモードを設定します。

❑ Dolby PLⅡ モードの場合

Movie:	サウンドモードを映画やテレビ番組の再生に適したモードに切り替えます。
Music:	サウンドモードを音楽の再生に適したモードに切り替えます。
Game:	サウンドモードをゲームの再生に適したモードに切り替えます。
Pro Logic:	Dolby Pro Logic の再生モードです。

❑ DTS Neo:6 モードの場合

Cinema:	サウンドモードを映画やテレビ番組の再生に適したモードに切り替えます。
Music:	サウンドモードを音楽の再生に適したモードに切り替えます。

- “Music”モードでは、ステレオの音楽を多く含む映画ソースにも有効です。

■ ダイナミックレンジ圧縮

ダイナミックレンジ(静かな音と大きな音のレベル差)を圧縮します。

オート:	再生するソースによってダイナミックレンジの圧縮を自動でオン/オフします。
弱 / 中 / 強:	ダイナミックレンジの圧縮量を設定します。
オフ:	ダイナミックレンジを圧縮しません。

- “オート”は、入力信号が Dolby TrueHD のときに設定できます。

■ LFE

低域信号(LFE)レベルを調節します。

-10 dB～0 dB(お買い上げ時の設定:0 dB)

- 各ソースを正しく再生するために、次の値に設定することをおすすめします。
  - Dolby Digital ソース:0 dB
  - DTS の映画ソース:0 dB
  - DTS の音楽ソース:−10 dB

■ センターイメージ

センターチャンネルから出力されるせりふをフロント左右のチャンネルに振り分け、前方の音場イメージを広げます。

0.0～1.0(お買い上げ時の設定:0.3)

- サウンドモードが DTS Neo:6 の“Music”モードのときに設定できます。
- 数値が小さくなるほど、せりふはセンターチャンネルに集中します。数値が大きくなるほど、フロント左右チャンネルに振り分けられ、前方の音場イメージが広がります。

■ パノラマ

前方の音場を後方へ拡大し、シームレスで包み込むようなサラウンド効果を与えます。

オン:	“パノラマ”を使用します。
オフ (お買い上げ時の設定):	“パノラマ”を使用しません。

- サウンドモードが Dolby PLⅡ の“Music”モードのときに設定できます。

■ ディメンション

音場イメージの中心を前方または後方にシフトし、再生バランスを調節します。

0～**6**(お買い上げ時の設定:3)

- サウンドモードが Dolby PLⅡ の“Music”モードのときに設定できます。
- 数値が小さくなるほど、サラウンド音場は後方に移動し、数値が大きくなるほど、サラウンド音場は前方に移動します。

■ センター幅

センターチャンネルから出力されるせりふをフロント左右のチャンネルに振り分け、前方の音場イメージを広げます。

0～**7**(お買い上げ時の設定:3)

- サウンドモードが Dolby PLⅡ の“Music”モードのときに設定できます。
- 数値が小さくなるほど、せりふはセンターチャンネルに集中します。数値が大きくなるほど、フロント左右チャンネルに振り分けられ、前方の音場イメージが広がります。

■ サブウーハー

サブウーハー出力のオン/オフを設定します。

オン (お買い上げ時の設定):	サブウーハーを使用します。
オフ:	サブウーハーを使用しません。

- サウンドモードが“Direct”または“Stereo”のときに設定できます。

■ 初期化

“サラウンドパラメーター”で設定した内容がお買い上げ時の設定に戻ります。

リストアラー

MP3、WMA(Windows Media Audio)や MPEG-4 AAC などの圧縮オーディオフォーマットは、人間の耳には聞こえにくい部分の信号を省いてデータ量を減らしています。“リストアラー”は、圧縮処理をするときに省かれた信号を生成し、圧縮する前の音に近い状態に復元する機能です。同時に低音域の量感の補正もおこないますので、圧縮オーディオ信号をより豊かに再生できます。

オン:	“リストアラー”を使用します。
オフ (お買い上げ時の設定):	“リストアラー”を使用しません。

- アナログ入力や PCM 信号(サンプリング周波数=44.1/48kHz)が入力されたときに設定できます。
- サウンドモードが“Direct”のときは設定できません。
- “リストアラー”の設定は、入力ソースごとに記憶します。

オーディオディレイ

映像と音声のタイミングがずれているときに、音声の出力タイミングを調節します。

0 ms～200 ms（お買い上げ時の設定：0 ms）

- “オーディオディレイ”の設定は、入力ソースごとに記憶します。
- リモコンの AUDIO DELAY +または AUDIO DELAY -を押しても、“オーディオディレイ”の設定ができます。

音量

音量に関する設定をします。

■ 表示方法

音量の表示方法を設定します。

0 - 98（お買い上げ時の設定）：	0（最小）～98 の範囲で表示します。
-79.5 dB - 18.0 dB：	---dB（最小）、-79.5dB～18.0dB の範囲で表示します。

■ 音量の上限

音量の上限を設定します。

60(-20 dB)/ 70(-10 dB)/ 80(0 dB)

オフ（お買い上げ時の設定）

- “表示方法”の設定が“-79.5dB - 18.0 dB”のときに dB 値を表示します。(☞75 ページ)

■ 電源オン時の音量

電源をオンにしたときの音量を設定します。

前回の音量（お買い上げ時の設定）：	前回使用したときの音量になります。
消音：	常に消音状態になります。
1 – 98 (-79 dB – 18 dB)：	設定した音量になります。

- “表示方法”の設定が“-79.5dB - 18.0 dB”のときに dB 値を表示します。(☞75 ページ)

■ ミューティングレベル

ミューティング時の音量の減衰量を設定します。

消音 (お買い上げ時の設定):	消音状態になります。
-40 dB:	現在の音量から 40dB 下げて再生します。
-20 dB:	現在の音量から 20dB 下げて再生します。

バイリンガルモード

AAC ソースやドルビーデジタルの二重音声を再生するときの出力内容を設定します。

■ モード

主音声 (お買い上げ時の設定):	主音声のみ出力します。
副音声:	副音声のみ出力します。
主/副:	主音声は左チャンネルから、副音声は右チャンネルから出力します。
主+副:	主音声と副音声をミックスして出力します。

ルームEQ

イコライザーを使用するかしないかを設定します。

オン:	“ルーム EQ”を使用します。
オフ (お買い上げ時の設定):	“ルーム EQ”を使用しません。

- この項目は、オートセットアップをおこなったあとに設定できます。

ビデオ

HDMI オーディオ出力、HDMI パススルーおよび HDMI コントロールの設定をします。

ご注意

- “HDMI パススルー”および“HDMI コントロール”を“オン”に設定している場合は、スタンバイ時の待機電力を多く消費します。(「HDMI パススルー」(☞78 ページ)、「HDMI コントロール」(☞79 ページ)) 長期間本機を使用しない場合は、電源コードをコンセントから抜くことをおすすめします。

HDMI オーディオ出力

HDMI の音声の出力先を設定します。

AV アンプ (お買い上げ時の設定):	本機に接続したスピーカーで再生します。
テレビ:	本機に接続したテレビで再生します。

- HDMI コントロール機能が動作しているときは、本機に接続したテレビの音声設定を優先します。(☞61 ページ)
- “HDMI オーディオ出力”の設定が“テレビ”で本機の電源が入っている場合、HDMI 出力端子から 2 チャンネルの音声を出力します。

HDMI パススルー

本機がスタンバイのときに、入力されている HDMI 信号を HDMI モニターへ出力するかどうかを設定します。

オン (お買い上げ時の設定):	本機がスタンバイのときでも、入力されている HDMI 信号を HDMI モニターへ出力します。
オフ:	本機がスタンバイのときに、入力されている HDMI 信号を HDMI モニターへ出力しません 。

パススルーソース

本機がスタンバイのときに、HDMI 信号を入力する HDMI 端子を設定します。

最後のソース (お買い上げ時の設定):	前回使用していた入力ソースのままスタンバイします。
CBL/SAT / DVD/Blu-ray / Game / Media Player:	選択した入力ソースをパススルーします。

- “パススルーソース”は、“HDMI パススルー”が“オン”のとき、または“HDMI コントロール”の設定が“オン”のときに設定できます。(「HDMI パススルー」(☞78 ページ)、「HDMI コントロール」(☞79 ページ))

HDMI コントロール

HDMI 接続した HDMI コントロール対応機器と連動して操作できます。

オン:	HDMI コントロール機能を使用します。
オフ (お買い上げ時の設定):	HDMI コントロール機能を使用しません。

- 接続した機器の設定方法は、各機器の取扱説明書をご覧ください。
- HDMI コントロール機能については、「HDMI コントロール機能」をご覧ください。(☞61 ページ)

ご注意

- “HDMI コントロール”の設定を変更した場合は、変更後必ず接続機器の電源を切り、電源を入れ直してください。

ARC

ARC 機能を使用し、HDMI MONITOR 端子に接続されているテレビから、HDMI 経由でテレビの音声を受信するかどうかを設定します。

オン:	ARC 機能を使用します。
オフ (お買い上げ時の設定):	ARC 機能を使用しません。

- テレビのリモコンで本機の音量を調節できます。
- この機能を使用する場合は、ARC(Audio Return Channel)に対応したテレビを使用し、テレビの HDMI コントロール機能を有効にしてください。
- "HDMI コントロール"の設定を"オン"にすると、"ARC"の設定は自動的に"オン"になります。(☞79 ページ)

ご注意

- "ARC"の設定を変更した場合は、変更後必ず接続機器の電源を切り、電源を入れ直してください。

TV Audio 切り替え

HDMI ケーブルで接続したテレビから、CEC コマンドを受信したとき、自動的に入力ソースを"TV Audio"に切り替えるかどうかを設定します。

オン (お買い上げ時の設定):	テレビからのコマンドを受信したとき、自動的に入力ソースを"TV Audio"に切り替えます。
オフ:	テレビからのコマンドを受信したとき、自動的に入力ソースを"TV Audio"に切り替えません。

- "TV Audio 切り替え"は"HDMI コントロール"の設定が"オン"のときに設定できます。(☞79 ページ)

パワーオフコントロール

テレビの電源オフに連動して、本機の電源をスタンバイにします。

すべて (お買い上げ時の設定):	本機の入力ソースに関わらず、テレビの電源をオフにすると、自動的に本機の電源がスタンバイになります。
ビデオ:	"HDMI"が割り当てられている入力ソースのときに、テレビの電源をオフにすると、自動的に本機の電源がスタンバイになります。
オフ:	本機はテレビの電源に連動しません。

- "パワーオフコントロール"は"HDMI コントロール"の設定が"オン"のときに設定できます。(☞79 ページ)

入力ソース

現在選択している入力ソースに関する設定をします。
設定を変更しなくてもご使用いただけます。必要に応じて設定してください。

入力端子の割り当て

本機の音声/映像入力端子に印字された入力ソースのとおりに接続をおこなうと、入力ソース切り替えボタンを押すだけで、接続した機器の音声や映像を簡単に再生できます。
本機の音声/映像入力端子に印字された入力ソースと異なる接続をおこなう場合は、この項目で、デジタルオーディオ入力端子の割り当てを変更してください。

• 各項目のお買い上げ時の設定は、次のとおりです。

入力ソース / 入力端子	CBL/ SAT	DVD/ Blu-ray	Media Player	Blu-ray	Game	TV Audio
OPTICAL1						○
OPTICAL2	○					

■ 初期化

“入力端子の割り当て”で設定した内容がお買い上げ時の設定に戻ります。

ソースレベル

選択した入力ソースの音声入力の再生レベルを補正します。
ソースによって再生レベルに差があるときなどに設定してください。

–12 dB～+12 dB（お買い上げ時の設定：0 dB）

• “ソースレベル”の設定は、入力ソースごとに記憶します。

オーディオ入力端子の選択

各入力ソースの音声入力モードとデコードモードを設定します。
選択できる入力モードは、入力ソースによって異なります。

- “オーディオ入力端子の選択”の設定は、入力ソースごとに記憶します。

■ 入力モード

各入力ソースの音声入力モードを設定します。
通常は、“オート”に設定することをおすすめします。

オート (お買い上げ時の設定):	本機に入力されている信号を自動的に検出して再生します。
HDMI:	HDMI 入力端子からの入力信号のみを再生します。
デジタル:	デジタルオーディオ入力端子からの入力信号のみを再生します。
アナログ:	アナログオーディオ入力端子からの入力信号のみを再生します。

- デジタル信号を正しく入力すると、ディスプレイのDIG.表示が点灯します。DIG.表示が点灯しない場合は、“入力端子の割り当て”や接続を確認してください。(☞82 ページ)
- メニューの“HDMI コントロール”の設定が“オン”で、HDMI MONITOR 端子に ARC 対応テレビを接続している場合、入力ソースが“TV Audio”のときの入力モードは ARC 固定になります。

■ デコードモード

入力ソースの音声をデコードするモードを設定します。
通常は、“オート”に設定することをおすすめします。“PCM”や“DTS”は、頭切れやノイズが気になるときに設定することをおすすめします。

オート (お買い上げ時の設定):	デジタル入力信号の種類を識別し、自動的にデコードして再生します。
PCM:	PCM 信号が入力されたときだけ、デコードして再生します。
DTS:	DTS 信号が入力されたときだけ、デコードして再生します。

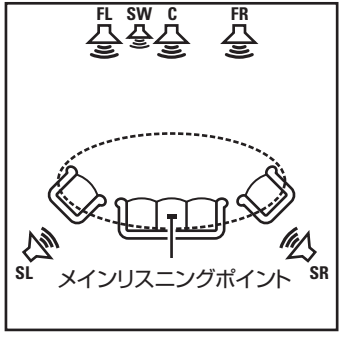
- この項目は、HDMI 接続されている入力ソース、またはメニューの“入力端子の割り当て”で“OPTICAL1”、“OPTICAL2”が割り当てられている入力ソースのときに設定できます。(☞82 ページ)

スピーカー

接続されたスピーカーやリスニングルームの音響特性を測定し、最適な設定を自動的におこないます。この機能を“オートセットアップ”と呼びます。
すでに“セットアップアシスタント”で“スピーカーの設定”をおこなっている場合、“オートセットアップ”をおこなう必要はありません。
手動でスピーカーの設定をしたい場合は、メニューの“マニュアルセットアップ”でおこなってください。(☞89 ページ)

オートセットアップ

測定は、メインリスニングポイントの位置にセットアップマイクを設置しておこないます。



FL フロントスピーカー(左)
FR フロントスピーカー(右)
C センタースピーカー
SW サブウーハー
SL サラウンドスピーカー(左)
SR サラウンドスピーカー(右)

■ メインリスニングポイントについて

メインリスニングポイントとは、最もリスナーが座る位置または一人で視聴するときに座る位置です。“オートセットアップ”をはじめる前に、セットアップマイクをメインリスニングポイントに設置してください。

ご注意

- できるだけ部屋を静かにしてください。騒音は測定の妨げとなります。窓を閉め、電化製品(ラジオ、エアコン、蛍光灯など)の電源を切ってください。測定の際、これらの製品による騒音の影響を受ける場合があります。
- 測定中、携帯電話はリスニングルーム以外の場所に置いてください。携帯電話の電波が測定を妨げる原因になることがあります。
- 測定中は、スピーカーとセットアップマイクの間に立ったり、障害物を置いたりしないでください。また、セットアップマイクは壁から 50cm 以上離して設置してください。正しい測定ができません。
- 測定中にテストトーンを出力しますが、これは正常な動作です。リスニングルーム内の騒音が大きいほどテストトーンの音量が大きくなります。
- ヘッドホンを接続している場合、測定はできません。“オートセットアップ”をおこなう前に、ヘッドホンのプラグを抜いてください。

スピーカー設定の流れ(オートセットアップ)

準備
↓
測定
↓
終了

1 セットアップマイクを三脚に取り付けて、メインリスニングポイントに設置する。

セットアップマイクを設置する場合は、マイクの先端を天井に向け、マイクの高さを視聴者が座ったときの耳の高さに合うように調節してください。

2 次の設定ができるサブウーハーをご使用の場合のみ、この設定をおこなってください。

❑ **ダイレクトモード機能があるサブウーハーをご使用の場合**

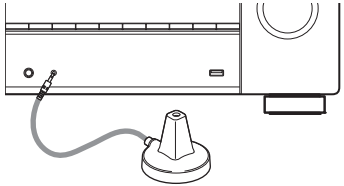
ダイレクトモード機能を“オン”にして、音量とクロスオーバー周波数の設定を無効にしてください。

❑ **ダイレクトモード機能がないサブウーハーをご使用の場合**

次のように設定してください。

- 音量の設定:12 時の位置
- クロスオーバー周波数の設定:最大/最高周波数
- ローパスフィルターの設定:オフ
- スタンバイモードの設定:オフ

3 セットアップマイクを本体の SETUP MIC 端子に接続する。



セットアップマイクを接続すると、テレビに次のセットアップ画面を表示します。

4 “スタート”を選び、ENTER を押す。

5 “次へ”を選び、ENTER を押す。

6 “テスト開始”を選び、ENTER を押す。

- 測定には数分間かかります。

ご注意

- **テレビ画面に“注意！”が表示された場合:**
  - 「エラーメッセージについて」(☞88 ページ)をご覧ください。関連する項目を確認し、必要な対処をおこなってください。

❑ オートセットアップを中止するとき

① BACK を押して、ポップアップ画面を表示させる。
② ◁ を押して“有り”を選び、ENTER を押す。

7 本体の SETUP MIC 端子からセットアップマイクを抜く。

“オートセットアップ”をおこなったあとに、スピーカーの接続やサブウーハーの音量を変更しないでください。変更した場合は、最適なイコライザーの補正効果を得るために、もう一度“オートセットアップ”をおこなってください。

エラーメッセージについて

スピーカーの設置や測定環境などにより“オートセットアップ”を完了できなかった場合に、エラーメッセージを表示します。エラーメッセージが表示された場合は、関連する項目を確認し、必要な対処をおこなってください。スピーカーの接続を確認するときは、必ず電源を切ってください。

エラーメッセージ(例)	エラーの内容	エラーの処理方法
フロント左:無し	• 表示されたスピーカーが検出されない。	• 表示されたスピーカーの接続を確認してください。

マニュアルセットアップ

スピーカーを手動で設定する場合や“オートセットアップ”で測定した内容を変更するときにおこなってください。

- “マニュアルセットアップ”の設定を変更しなくてもご使用いただけます。必要に応じて設定してください。

スピーカーの構成

スピーカーの有無や低音域再生能力によるスピーカーの大きさを設定します。

■ フロント

フロントスピーカーの大きさを設定します。

大（お買い上げ時の設定）:	低音域を十分に再生できる大型スピーカーを使用します。
小:	低音域の再生能力が十分でない小型スピーカーを使用します。

- “サブウーハー”の設定が“無し”の場合、“フロント”の設定は自動的に“大”になります。
- “フロント”の設定が“小”の場合、“センター”および“サラウンド”を“大”に設定できません。

■ センター

センタースピーカーの有無や大きさを設定します。

大:	低音域を十分に再生できる大型スピーカーを使用します。
小 (お買い上げ時の設定):	低音域の再生能力が十分でない小型スピーカーを使用します。
無し:	センタースピーカーを使用しません。

■ サブウーハー

サブウーハーの有無を設定します。

有り (お買い上げ時の設定):	サブウーハーを使用します。
無し:	サブウーハーを使用しません。

■ サラウンド

サラウンドスピーカーの有無や大きさを設定します。

大:	低音域を十分に再生できる大型スピーカーを使用します。
小 (お買い上げ時の設定):	低音域の再生能力が十分でない小型スピーカーを使用します。
無し:	サラウンドスピーカーを使用しません。

距離

リスニングポイントからスピーカーまでの距離を設定します。
あらかじめリスニングポイントから各スピーカーまでの距離を測定しておいてください。

■ ステップ

距離の単位を設定します。

0.1 m / 0.01 m (お買い上げ時の設定:0.1 m)

■ 初期化

“距離”で設定した内容がお買い上げ時の設定に戻ります。

■ 距離を設定します

0.00 m~18.00 m

- メニューの“スピーカーの構成”の設定により、選択できるスピーカーが異なります。(☞89 ページ)
- お買い上げ時の設定:
  フロント左 / フロント右 / センター / サブウーハー:3.60 m
  サラウンド左 / サラウンド右:3.00 m
- 各スピーカーに設定した距離の差は、6.00m 以下になるように設定してください。

レベル

リスニングポイントに対して、各スピーカーから出力されるテストトーンの音量が同じになるように設定します。

■ テストトーン開始

選択したスピーカーからテストトーンを出力します。
テストトーンを聞きながら、各スピーカーの音量を調節してください。

–12.0 dB～+12.0 dB(お買い上げ時の設定:0.0 dB)

- 設定した“レベル”は、すべてのサウンドモードに反映します。
- 本体の PHONES 端子にヘッドホンを挿入している場合は、“レベル”の設定はできません。

■ 初期化

“レベル”で設定した内容がお買い上げ時の設定に戻ります。

クロスオーバー周波数

各スピーカーで再生可能な低音域の下限周波数に合わせて設定します。

■ クロスオーバー周波数を設定します

40 Hz / 60 Hz / 80 Hz / 90 Hz / 100 Hz / 110 Hz / 120 Hz / 150 Hz / 200 Hz / 250 Hz(お買い上げ時の設定:80 Hz)

- “クロスオーバー周波数”は、メニューの“サブウーハーモード”の設定が“LFE+メイン”のとき、または“小”に設定しているスピーカーがあるときに設定できます。(☞92 ページ)
- クロスオーバー周波数は、通常“80 Hz”に設定してください。小型スピーカーをご使用になる場合は、クロスオーバー周波数をより高い周波数に設定することをおすすめします。例えば、スピーカーの周波数帯域が 250Hz～20kHz の場合は、“250 Hz”に設定してください。
- “小”に設定しているスピーカーからは、クロスオーバー周波数以下の音声をカットして出力します。カットした低音域は、サブウーハーまたはフロントスピーカーから出力します。

低音

サブウーハーや LFE 信号の低音域再生に関する設定をします。

■ サブウーハーモード

サブウーハーで再生する低音域信号を設定します。

LFE:	サブウーハー用の信号に、スピーカーの大きさを“小”に設定しているチャンネルの低音域信号を加えて出力します。
LFE+メイン（お買い上げ時の設定）:	サブウーハー用の信号に、すべてのチャンネルの低音域信号を加えて出力します。

- “サブウーハーモード”は、メニューの“スピーカーの構成” - “サブウーハー”の設定が“無し”以外のときに設定できます。(☞90 ページ)
- 音楽ソースや映画ソースを再生して、量感のある低音域が得られるモードを選択してください。
- メニューの“スピーカーの構成” - “フロント”と“センター”の設定が“大”で、なおかつ“サブウーハーモード”の設定が“LFE”の場合は、入力信号やサウンドモードによってサブウーハーから音声が出力されない場合があります。(☞89 ページ)
  常にサブウーハーから低音域を出力したい場合は、“LFE+メイン”に設定してください。

■ LFE 用ローパスフィルター

LFE 信号の再生帯域を設定します。サブウーハーでの再生周波数を変更する場合に設定します。

80 Hz / 90 Hz / 100 Hz / 110 Hz / 120 Hz/ 150 Hz / 200 Hz / 250 Hz（お買い上げ時の設定：120 Hz）

一般

その他の設定をします。

言語

テレビ画面に表示するメニューの言語を設定します。

日本語 / English(お買い上げ時の設定:日本語)

- “言語”は、次の操作でも設定できます。この設定中は、メニュー画面を表示しません。ディスプレイの表示を見ながら設定してください。

1. 本機の電源が入っているときに、本体の TUNE +、TUNE -および DIMMER を同時に 3 秒以上長押しする。
   ディスプレイに“V.Format:< NTSC>”を表示します。
2. 本体の STATUS を押す。
   ディスプレイに“Lang.:<JAPANESE>”を表示します。
3. 本体の TUNER PRESET CH +または DIMMER を押して、言語を設定する。
4. TUNE -を押して、設定を終了する。

エコ設定

エコモードとオートスタンバイの設定をします。

■ エコモード

本機の電源がオンのときの消費電力を低減できます。

オン:	音量に関わらず、常に消費電力を低減します。
オート (お買い上げ時の設定):	音量に合わせて、自動的に消費電力を低減します。
オフ:	消費電力を低減しません。

- 大音量で音声を出力したいときは、“エコモード”を“オフ”に設定することをおすすめします。
- リモコンの ECO を押しても、エコモードを切り替えることができます。

■ 電源オン時の設定

電源をオンにしたときのエコモードを設定します。

前回の設定 (お買い上げ時の設定):	前回電源をオフにする前の設定になります。
オン:	電源をオンにしたとき、常に“エコモード”が“オン”になります。
オート:	電源をオンにしたとき、常に“エコモード”が“オート”になります。
オフ:	電源をオンにしたとき、常に“エコモード”が“オフ”になります。

■ オートスタンバイ

自動的に本機をスタンバイ状態にする設定をします。
音声や映像の入力がない状態で本機を操作しないときに、自動的にスタンバイ状態にする時間を設定します。
スタンバイ状態になる前に、本体のディスプレイとメニュー画面に“オートスタンバイ”を表示します。

60 min:	約 60 分後に本機をスタンバイ状態にします。
30 min:	約 30 分後に本機をスタンバイ状態にします。
15 min:	約 15 分後に本機をスタンバイ状態にします。
オフ (お買い上げ時の設定):	自動的に本機をスタンバイ状態にしません。

Bluetooth

Bluetooth に関する設定をします。

■ Bluetooth スタンバイ

Bluetooth 機器の操作で、本機の電源をオンにするかしないかを設定します。

オン (お買い上げ時の設定):	Bluetooth スタンバイ機能を設定します。
オフ:	Bluetooth スタンバイ機能を設定しません。

- “Bluetooth スタンバイ”を“オン”に設定し、本機がスタンバイ状態のときに Bluetooth 機器から接続操作をおこなうと、自動的に本機の電源をオンにします。この操作をおこなう場合、あらかじめペアリングを完了させてください。

ご注意

- “Denon 500 Series Remote”アプリをご使用になる場合は、“Bluetooth スタンバイ”を“オン”に設定してください。

■ 自動入力ソース切り替え

Bluetooth 機器から接続操作をおこなったとき、自動的に入力ソースを“Bluetooth”に切り替えるかどうかを設定します。

オン (お買い上げ時の設定):	本機に Bluetooth 機器を接続している場合は、自動的に入力ソースが“Bluetooth”になります。
オフ:	本機に Bluetooth 機器を接続している場合は、“Bluetooth”以外の入力ソースを選択してください。

- 本機で“Denon 500 Series Remote”を使用時、自動的に本機の入力ソースを“Bluetooth”に切り替えない場合は、“自動入力ソース切り替え”を“オフ”に設定してください。
- ご使用の Bluetooth 機器の仕様によっては、Bluetooth 機器が本機の通信範囲に入ると、本機に対して自動的に接続操作をおこなう場合があります。この場合、“自動入力ソース切り替え”を“オフ”に設定すると、意図しないときに本機の電源がオンになったり、入力ソースを“Bluetooth”に切り替わったりすることを防ぐことができます。

フロントディスプレイ

本機のディスプレイの明るさを調節します。

■ ディスプレイの明るさ

通常 (お買い上げ時の設定):	通常の明るさです。
薄暗い:	薄暗くします。
暗い:	暗くします。
オフ:	ディスプレイを消灯します。

- ディスプレイの明るさを“オフ”に設定している場合は、スタンバイ状態のようにディスプレイが消灯します。
- 本体の DIMMER を押しても、ディスプレイの明るさを調節できます。

ファームウェア

ファームウェアが提供されたときに、本機の USB 端子を使用してアップデートします。
USB メモリーを使用してアップデートしてください。

■ アップデート開始

ファームウェアのアップデートをはじめます。
アップデートする場合は、本機の USB 端子に USB メモリーを接続してください。

セットアップロック

設定した内容を変更できないようにロックします。

■ セットアップロック

オン:	設定した内容をロックします。
オフ (お買い上げ時の設定):	設定した内容をロックしません。

- “セットアップロック”を“オフ”に設定する場合は、次の手順で操作してください。

1. SETUP を 3 秒以上長押しする。
   ディスプレイに “Setup Lock:◀On▶”を表示します。
2. ◁▷ で“オフ”を選び、ENTER を押す。

ご注意

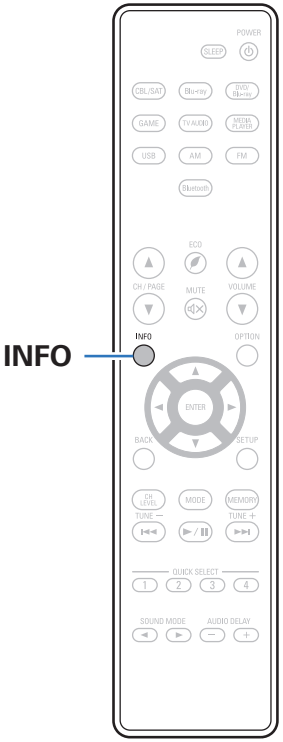
- “セットアップロック”を“オン”に設定すると、“Setup Lock”以外の設定項目は表示されません。

初期化

すべての設定内容がお買い上げ時の設定に戻ります。

- 本体のボタンを使用しても“初期化”の操作ができます。すべての設定をお買い上げ時の設定に戻す方法は、「お買い上げ時の設定に戻す」(☞113 ページ)をご覧ください。

情報を確認する



本機の各種設定(ステータス)や入力信号(オーディオ入力信号)の情報をディスプレイに表示します。

1 **INFO を押す。**
インフォメーション画面を表示します。

- INFO を押すと、現在の入力ソース名、音量、サウンドモードなどを画面下側に表示します。

ご注意

- 次の映像信号の再生中は、状態表示画面を表示できません。
  - コンピューター解像度の映像
  - 16:9、4:3 以外のアスペクト比の映像

■ 目次

こんなときの解決方法

誤って音量が大きくならないようにしたい 100
電源を入れたときの音量を常に同じにしたい 100
常にサブウーハーから音を出したい 100
スピーカーの構成や設置を変えたり、スピーカーを買い替えたりした場合に、最適なリスニング環境に設定したい 100
今聴いている音楽に好きな映像を組み合わせたい 100

故障かな？と思ったら

電源が入らない / 電源が切れる 102
リモコンで操作ができない 103
本機のディスプレイが表示されない 103
音がまったく出ない 104
希望する音が出ない 105
音が途切れたり、ノイズが入ったりする 107
テレビに映像が映らない 108
テレビにメニュー画面が表示されない 109
テレビに表示されるメニュー画面や操作内容の色が通常と異なる 109
USB メモリーが再生できない 110
USB メモリー内のファイル名が正しく表示されない 111
Bluetooth が再生できない 111
HDMI コントロール機能が動作しない 112

こんなときの解決方法

誤って音量が大きくならないようにしたい

- メニューの“音量の上限”で音量の上限値をあらかじめ設定してください。小さな子供が誤って音量を上げすぎることなどを防ぎます。(☞75 ページ)

電源を入れたときの音量を常に同じにしたい

- お買い上げ時の設定では、本機をスタンバイにしたときの音量設定が次回電源を入れたときに、前回スタンバイしたときの音量がそのまま適用されます。音量を一定にしたい場合は、メニューの“電源オン時の音量”で電源を入れたときの音量を設定してください。(☞75 ページ)

常にサブウーハーから音を出したい

- 入力信号やサウンドモードによってサブウーハーから音が出ない場合があります。メニューの“サブウーハーモード”を“LFE+メイン”に設定すると、常にサブウーハーから音声を出力することができます。(☞92 ページ)

スピーカーの構成や設置を変えたり、スピーカーを買い替えたりした場合に、最適なリスニング環境に設定したい

- “オートセットアップ”をおこなってください。新しいリスニング環境に最適なスピーカーの設定を自動でおこないます。(☞84 ページ)

今聴いている音楽に好きな映像を組み合わせたい

- オプションメニューの“ビデオセレクト”を“オン”に設定してください。チューナーの音楽を聴きながら、DVD やセットトップボックスなどお好みの映像ソースを組み合わせることができます。(☞56 ページ)

故障かな？と思ったら

最初に次のことを確認してください。

1. 各接続は正しいですか
2. 取扱説明書に従って正しく操作していますか
3. スピーカーやプレーヤーは正しく動作していますか

- 上記の手順 1～3 をおこなっても動作が改善しない場合、本機を再起動すると改善することがあります。
  ディスプレイに“Restart”が表示されるまで、本体の ⏻ ボタンを押し続けるか、本機の電源コードを抜き差ししてください。

本機が正しく動作しないときは、該当する症状に従ってチェックしてみてください。
なお、どの症状にも該当しない場合は本機の故障とも考えられますので、お買い上げの販売店にご相談ください。もし、お買い上げの販売店でもおわかりにならない場合は、当社のお客様相談センターまたはお近くの修理相談窓口にご連絡ください。

■ 電源が入らない / 電源が切れる

症状	原因 / 対策	関連ページ
電源が入らない。	• コンセントへの電源プラグの差し込みを点検してください。	36
電源が自動的に切れる。	• スリープタイマーが設定されています。再度電源を入れてください。	63
	• “オートスタンバイ”が設定されています。操作がない状態で一定時間が経過すると、“オートスタンバイ”が動作します。“オートスタンバイ”を無効にするには、メニューの“オートスタンバイ”を“オフ”に設定してください。	94
電源が切れ、電源表示が約 2 秒間隔で、赤色に点滅している。	• 機器内部の温度上昇により、保護回路がはたらいています。電源が切れている状態で、1 時間程度待ち、本機の温度が十分下がってから、電源を入れ直してください。	129
	• 本機を風通しの良い場所に設置し直してください。	–
電源が切れ、電源表示が約 0.5 秒間隔で、赤色に点滅している。	• スピーカーの接続を確認してください。スピーカーケーブルの芯線どうしが接触したり、芯線が端子から外れたりして、芯線が本機のリアパネルに接触したため、保護回路がはたらいている可能性があります。電源コードを抜き、芯線をしっかりとよじり直すか、端末処理をするなどしたあとで、接続し直してください。	22
	• 音量を下げて、電源を入れ直してください。	38
	• 本機のアンプ回路が故障しています。電源コードを抜き、当社の修理相談窓口までご連絡ください。	–

■ リモコンで操作ができない

症状	原因 / 対策	関連ページ
リモコンで操作ができない。	• 乾電池が消耗しています。新しい乾電池と交換してください。	6
	• リモコンは、本機から約 7m および 30° 以内の範囲で操作してください。	6
	• 本機とリモコンの間の障害物を取り除いてください。	–
	• 乾電池の ⊕ と ⊖ を正しくセットしてください。	6
	• 本機のリモコン受光部に強い光（直射日光、インバーター式蛍光灯の光など）があたっています。受光部に強い光があたらない場所に設置してください。	–
	• 3D 映像機器をご使用の場合、各ユニット間（テレビや 3D 視聴用メガネなど）の赤外線通信の影響によって本機のリモコンが効かなくなることがあります。その場合は、3D 通信の各ユニットの向きと距離を調節して、本機のリモコンの動作に影響がないことを確認してください。	–

■ 本機のディスプレイが表示されない

症状	原因 / 対策	関連ページ
ディスプレイの表示が消える。	• 本体の DIMMER ボタンを押して、ディスプレイの明るさを“消灯”以外の設定にしてください。	96

■ 音がまったく出ない

症状	原因 / 対策	関連ページ
スピーカーから音が出ない。	• すべての機器の接続を確認してください。	22
	• 接続ケーブルを奥まで挿してください。	–
	• 入力端子と出力端子を間違えて接続していないか確認してください。	–
	• ケーブルが破損していないか確認してください。	–
	• スピーカーケーブルが正しく接続されていることを確認してください。ケーブルの芯線がスピーカー端子の金属部に接触していることを確認してください。	22
	• 適切な入力ソースが選択されていることを確認してください。	38
	• 音量を適切な大きさに調節してください。	39
	• ミューティング(消音)モードを解除してください。	39
	• デジタルオーディオ入力端子の設定の確認をおこなってください。	82
	• 接続した機器のデジタル音声出力の設定を確認してください。機器によってはお買い上げ時の設定がオフになっていることがあります。	–
	• 本体の PHONES 端子にヘッドホンのプラグを挿入していると、スピーカー端子および SUBWOOFER 端子から音が出なくなります。	12
DVI-D 接続時に、音声が出ない。	• 本機を DVI-D 端子付きの機器に接続した場合、音声は出力しません。別途、音声の接続をおこなってください。	–

■ 希望する音が出ない

症状	原因 / 対策	関連ページ
音量が上がらない。	• 音量の上限値が低く設定されています。メニューの“音量の上限”で上限値を設定してください。	75
	• 入力された音声フォーマットや設定に合わせて適切な音量補正処理をしているため、上限値まで上がらない場合があります。	–
HDMI で接続したときに、音が出ない。	• HDMI 端子の接続を確認してください。	26
	• HDMI の音声信号をスピーカーから出力したい場合は、メニューの“HDMI オーディオ出力”を“AV アンプ”に設定してください。テレビから出力したい場合は、“テレビ”に設定してください。	78
特定のスピーカーから音が出ない。	• スピーカーケーブルが正しく接続されていることを確認してください。	22
	• メニューの“スピーカーの構成”が“無し”以外の設定になっているか確認してください。	89
	• サウンドモードが“Stereo”および“Virtual”のときは、フロントスピーカーとサブウーハーからのみ音声を出力します。	–
サブウーハーから音が出ない。	• サブウーハーの接続を確認してください。	23
	• サブウーハーの電源を入れてください。	–
	• メニューの“スピーカーの構成” - “サブウーハー”を“有り”に設定してください。	89
	• メニューの“スピーカーの構成” - “フロント”の設定が“大”の場合は、入力信号やサウンドモードによってサブウーハーから音声が出力されない場合があります。	89
	• 入力信号にサブウーハー音声信号(LFE)が含まれていない場合、サブウーハーから音声が出力されない場合があります。	92
	• メニューの“サブウーハーモード”を“LFE+メイン”に設定すると、常にサブウーハーから音声を出力することができます。	92
DTS 音声が出力されない。	• 接続した機器のデジタル音声出力の設定が“DTS”になっているか確認してください。	–
	• メニューの“デコードモード”を“オート”または“DTS”に設定してください。	83

症状	原因 / 対策	関連ページ
Dolby TrueHD、DTS-HD、Dolby Digital Plus の音声が出力されない。	• HDMI で接続してください。	30
	• 接続した機器のデジタル音声出力の設定を確認してください。機器によってはお買い上げ時の設定が“PCM”になっている場合があります。	–
Dolby PLⅡ モードや DTS Neo:6 モードが選択できない。	• メニューの“スピーカーの構成” - “センター”および“サラウンド”が“無し”の場合は選択できません。	90
	• ヘッドホン使用時は、Dolby PLⅡ または DTS Neo:6 を選択できません。	–
AAC 放送の音が途切れる。	• AAC 放送再生中に再生チャンネル数などの放送内容が切り替わった場合、音声が途中で途切れる場合があります。	–
AAC として再生しない。	• テレビやデジタルチューナーなどによっては、AAC 出力が“オフ”になっていたり、AAC 信号を PCM 信号に変換する設定になっていたりする場合があります。テレビやデジタルチューナーなどの設定画面で、デジタル音声や AAC 出力の設定をご確認ください。詳しくは、各機器の取扱説明書をご覧ください。	–
“リストアラー”が選択できない。	• アナログ信号または PCM 信号(サンプリング周波数=44.1/48kHz)が入力されているか確認してください。Dolby Digital や DTS サラウンドなどのマルチチャンネル信号の再生には“リストアラー”を使用することができません。	74
	• サウンドモードを“Direct”以外に切り替えてください。	57

■ 音が途切れたり、ノイズが入ったりする

症状	原因 / 対策	関連ページ
USB メモリーを再生中に、音が途切れることがある。	• USB メモリーの転送速度が遅いと音が途切れることがあります。	–
FM 放送または AM 放送の雑音が多い。	• アンテナの向きや位置を変えてください。	34
	• 本機から AM ループアンテナを外してください。	–
	• 屋外アンテナを使用してください。	34
	• アンテナと他の接続ケーブルを離してください。	34
音が歪んで聴こえる。	• 音量を下げてください。	39
	• エコモードを“オフ”に設定してください。エコモードが“オン”または“オート”のときは、大きな音量を再生すると音声が歪むことがあります。	93

■ テレビに映像が映らない

症状	原因 / 対策	関連ページ
映像が映らない。	• すべての機器の接続を確認してください。	26
	• 接続ケーブルを奥まで挿してください。	–
	• 入力端子と出力端子を間違えて接続していないか確認してください。	–
	• ケーブルが破損していないか確認してください。	–
	• 本機に接続されたテレビの入力端子に入力の設定を合わせてください。	82
	• 適切な入力ソースが選択されていることを確認してください。	38
	• ビデオ入力端子の設定の確認をおこなってください。	82
	• プレーヤーとテレビの解像度が合っていることを確認してください。	–
	• テレビが著作権保護(HDCP)に対応しているか確認してください。HDCP に対応していない機器を接続した場合、映像が正しく出力されません。	118
	• HDCP 2.2 で著作権保護されているコンテンツを楽しむ場合は、HDCP 2.2 に対応した再生機器とテレビをご使用ください。	–
	• 4K のコンテンツや HDCP 2.2 で著作権保護されたコンテンツを楽しむ場合は、HDMI 3、HDMI 4 または HDMI 5 の入力端子に接続してください。	–
DVI-D 接続時に、テレビに映像が映らない。	• DVI-D 接続の場合、機器間によってはコピーガード著作権保護(HDCP)によって正しく動作しない場合があります。	118
メニューを表示中に、テレビに映像が映らない。	• 次の映像信号の再生中にメニューを操作すると、メニューの背景に再生映像は表示されません。 ・一部の 3D ビデオコンテンツの映像 ・4K の映像 ・コンピューター解像度(例:VGA)の映像 ・16:9、4:3 以外のアスペクト比の映像	–

■ テレビにメニュー画面が表示されない

症状	原因 / 対策	関連ページ
テレビにメニュー画面や操作内容が表示されない。	• メニュー画面は、本機と HDMI 接続しているテレビにのみ表示します。本機とテレビをほかの映像出力端子で接続している場合は、本機のディスプレイを見ながら操作してください。	–
	• 次の映像信号の再生中は、テレビに操作内容は表示されません。 ・一部の 3D ビデオコンテンツの映像 ・コンピューター解像度(例:VGA)の映像 ・16:9、4:3 以外のアスペクト比の映像	98
	• テレビ側で 2D 映像を 3D 映像に変換している場合は、メニュー画面や操作内容を正しく表示されません。	–

■ テレビに表示されるメニュー画面や操作内容の色が通常と異なる

症状	原因 / 対策	関連ページ
テレビに表示されるメニュー画面や操作内容の色が違う。	• Dolby Vision 信号を再生中に本機を操作すると、表示されるメニュー画面や操作内容の色が通常と異なる場合があります。これは Dolby Vision 信号の特性により起こるもので、故障ではありません。	–

■ USB メモリーが再生できない

症状	原因 / 対策	関連ページ
“接続されていません”が表示される。	• 接続不良などで、本機が USB メモリーを認識できない場合があります。USB メモリーを接続し直すなど、接続を確認してください。	33
	• マスストレージクラス対応の USB メモリーに対応しています。	–
	• 本機は、USB ハブを経由した接続はできません。USB メモリーは USB 端子に直接接続してください。	–
	• USB メモリーのフォーマットを FAT16 または FAT32 に設定してください。	–
	• すべての USB メモリーの動作は保証できません。一部の USB メモリーは、認識できない場合があります。また、AC アダプターから電源供給できるタイプの USB 接続対応ポータブルハードディスクを使用する場合は、ハードディスクに AC アダプターを接続して使用してください。	–
USB メモリー内のファイルを表示しない。	• 本機が対応していない形式のファイルは表示しません。	40
	• 本機が表示できるファイルのフォルダ階層は最大 16 階層で、最大 999 ファイル（フォルダ）です。USB メモリーのフォルダ構成を変更してください。	–
	• USB メモリーに複数のパーティションがある場合、先頭のパーティションのファイルのみを表示します。	–
iOS および Android 機器が認識できない。	• 本機の USB 端子は、iOS および Android 機器の再生には対応していません。	–
USB メモリーのファイルを再生できない。	• 本機が対応していないフォーマットで作成されています。本機が対応しているフォーマットを確認してください。	119
	• 著作権保護のかかったファイルを再生しようとしています。本機では、著作権保護のかかったファイルを再生することはできません。	–
	• 本機では、データ圧縮をかけていない FLAC の 96kHz/24bit ファイルの再生はできません。本機が対応しているフォーマットを確認してください。	–

■ USB メモリー内のファイル名が正しく表示されない

症状	原因 / 対策	関連ページ
ファイル名が “...” など、正しく表示されない。	• 本機で表示できない文字は、“.(ピリオド)”に置き換えて表示します。	−

■ Bluetooth が再生できない

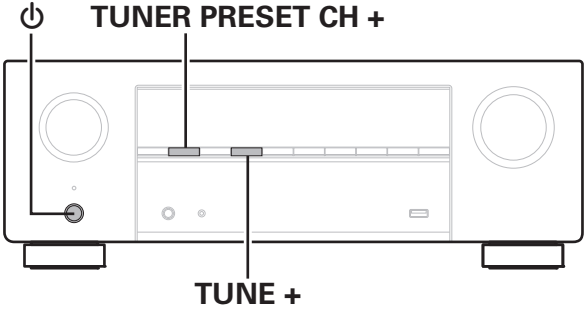
症状	原因 / 対策	関連ページ
本機に Bluetooth 機器が接続できない。	• Bluetooth 機器の Bluetooth 機能が有効になっていません。Bluetooth 機器の取扱説明書をご覧いただき、Bluetooth 機能を有効にしてください。	−
	• 本機と Bluetooth 機器を近づけてください。	−
	• Bluetooth 機器が A2DP プロファイルに対応していない場合、本機と接続できません。	−
	• ご使用の Bluetooth 機器の電源を入れ直してから、お試しください。	−
音が途切れる。	• 本機と Bluetooth 機器を近づけてください。	−
	• 本機と Bluetooth 機器の間にある障害物を取り除いてください。	−
	• 電波干渉がおきないように、電子レンジや無線 LAN 機器および他の Bluetooth 機器から本機を離してください。	−
	• Bluetooth の再接続操作をおこなってください。	−

■ HDMI コントロール機能が動作しない

症状	原因 / 対策	関連ページ
HDMI コントロール機能が動作しない。	• メニューの“HDMI コントロール”の設定が“オン”になっているか確認してください。	79
	• HDMI コントロール機能に対応していない機器は操作できません。また、接続する機器や設定によっては、HDMI コントロール機能が動作しない場合があります。その場合は、外部機器を直接操作してください。	61
	• 本機に接続しているすべての機器の HDMI コントロール機能の設定が有効になっているか確認してください。	61
	• HDMI 機器を追加して接続するなど、接続に関する変更をおこなうと、連動操作が初期化されることがあります。HDMI で接続した機器と本機の電源を入れ直してください。	61

お買い上げ時の設定に戻す

表示が正しくない場合や操作ができない場合などにおこないます。
各種設定内容がお買い上げ時の設定になります。再度設定をおこなってください。



1 ⏻ を押して、電源を切る。

2 TUNER PRESET CH +と TUNE +を同時に押しながら、⏻ を押す。

3 ディスプレイの表示が約 1 秒間隔で点滅したら、2 つのボタンから指を離す。

- メニューの“初期化”を使用すると、すべての設定内容をお買い上げ時の設定に戻すことができます。(☞97 ページ)

保証と修理について

■ 保証書について

- この製品には保証書が添付されております。
  保証書は、必ず「販売店名・購入日」などの記入を確かめて販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みの上、大切に保管してください。

■ 保証期間中の修理

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。
詳しくは保証書をご覧ください。

ご注意

保証書が添付されない場合は有料修理になりますので、ご注意ください。

■ 保証期間経過後の修理

修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により、有料修理致します。

■ 修理料金のしくみ

- 技術料・・・・故障した製品を正常に修復するための料金です。
  技術者の人件費・技術教育費・測定機器などの設備費・一般管理費などが含まれます。
- 部品代・・・・修理に使用した部品代金です。
  その他修理に付帯する部材などを含む場合もあります。
- 出張料・・・・製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。
  別途駐車料金をいただく場合があります。

■ 補修部品の保有期間

本機の補修用性能部品の保有期間は、製造打ち切り後 8 年です。

■ 修理を依頼されるとき

修理を依頼される前に

- 取扱説明書の「故障かな？と思ったら」の項目をご確認ください。
- 正しい操作をしていただけずに修理を依頼される場合がありますので、この取扱説明書をお読みいただき、お調べください。

修理を依頼されるとき

- 修理お問い合わせ窓口へご相談ください。
- 出張修理をご希望される場合は、別途出張料をご請求させていただくことになりますので、あらかじめご了承ください。
- 修理を依頼されるときのために、梱包材は保存しておくことをおすすめします。

■ 依頼の際に連絡していただきたい内容

- お名前、ご住所、お電話番号
- 製品名·····取扱説明書の表紙に表示しています。
- 製造番号···保証書と製品背面に表示しています。
- できるだけ詳しい故障または異常の内容

■ お客様の個人情報の保護について

- お客様にご記入いただいた保証書の控えは、保証期間内のサービス活動およびその後の安全点検活動のために記載内容を利用させていただく場合がございますので、あらかじめご了承ください。
- この商品に添付されている保証書によって、保証書を発行している者（保証責任者）およびそれ以外の事業者に対するお客様の法律上の権利を制限するものではありません。

HDMI について

High-Definition Multimedia Interface の略で、テレビやアンプなどと接続できる AV 用のデジタルインターフェースです。
HDMI 接続ではアナログの映像伝送で実現できなかったハイビジョン映像の伝送や、ブルーレイディスクプレーヤーで採用された高音質音声フォーマット(Dolby Digital Plus、Dolby TrueHD、DTS-HD、DTS-HD Master Audio)の伝送ができます。
また、従来の接続では、接続する機器間を音声ケーブルと映像ケーブルを使用して接続する必要がありましたが、HDMI 接続では、HDMI ケーブル 1 本で音声信号と映像信号を伝送できます。これにより、ホームシアターシステムで煩雑になりやすい配線をすっきりさせることができます。
本機は次の HDMI 機能に対応しています。

- **Deep Color**
  HDMI がサポートしている映像技術です。通常、RGB または YCbCr の各色を 8 ビット(256 階調)ずつで表現するところを、10 ビット(1024 階調)、12 ビット(4096 階調)、16 ビット(65536 階調)で表現することができるため、より高精細な色の表現を可能にします。
  HDMI 接続する機器の双方が Deep Color に対応している必要があります。
- **x.v.Color**
  色の表現がより正確になり、自然で生き生きとした映像を表現することが可能になります。
  “x.v.Color” はソニーの登録商標です。
- **3D**
  本機は、HDMI 規格の 3D(3 次元)映像信号の入出力に対応しています。3D 映像の再生には本機のほかに、HDMI 規格の 3D 機能に対応しているプレーヤーとテレビが必要です。また、3D 映像をご覧いただくには、別売りの 3D メガネが必要です。
- **4K**
  本機は、HDMI 規格の 4K(3840 × 2160 ピクセル)映像信号の入出力に対応しています。
- **Content Type**
  この機能は、出力映像の種類(コンテンツ情報)に適した設定を自動でおこないます。
- **Adobe RGB color、Adobe YCC601 color**
  Adobe システムズ社が定義した色空間(カラースペース)のことです。従来の RGB よりも広い色空間を持っているため、より鮮明で自然な映像を表現することができます。
- **sYCC601 color**
  “x.v.Color” 同様、これらのカラースペースは、従来の RGB よりも広い色空間を定義します。
- **HDMI パススルー**
  本機の電源がスタンバイ状態のときでも HDMI 入力端子から入力された信号を、HDMI 出力端子に接続されたテレビや他の機器に出力します。

- **HDMI コントロール**
  本機と HDMI コントロール機能対応のテレビやプレーヤーを HDMI ケーブルで接続し、それぞれの機器の HDMI コントロール機能の設定を有効にすると、機器間で相互に制御することができます。
  - 電源オフ連動
    テレビの電源オフ操作に連動して、本機の電源をオフにできます。
  - 音声出力先の切り替え
    テレビの操作で音声をテレビから出力するか、AV アンプから出力するか切り替えることできます。
  - 音量調節
    テレビの音量調節操作で、本機の音量の調節ができます。
  - 入力ソースの切り替え
    テレビの入力の切り替え操作に連動して、本機の入力ソースが切り替わります。
    プレーヤーを再生すると、本機の入力ソースがそのプレーヤーの入力ソースに切り替わります。

- **ARC(Audio Return Channel(オーディオ・リターン・チャンネル))**
  HDMI コントロール制御のもと、テレビの音声信号を HDMI ケーブルを経由して本機に伝送し、本機でテレビの音声を再生する機能です。
  ARC 機能のないテレビとの HDMI 接続では、本機に接続した再生機器の映像信号をテレビに伝送することはできても、テレビの音声を本機で再生することはできません。テレビ番組をサラウンド音声で視聴したい場合などには、別途音声ケーブルの接続が必要になります。
  これに対し、ARC 機能のあるテレビとの HDMI 接続では、音声ケーブルの接続は不要です。本機とテレビを接続する HDMI ケーブルを通して、テレビの音声信号を本機に入力することができます。この機能により、テレビの音声を本機のサラウンド再生で楽しみいただけます。

■ 対応する音声フォーマット

2 チャンネルリニア PCM	2 チャンネル、32kHz～192kHz、16/20/24bit
マルチチャンネルリニア PCM	7.1 チャンネル、32kHz～192kHz、16/20/24bit
ビットストリーム	Dolby Digital / DTS / Dolby TrueHD / Dolby Digital Plus / DTS-HD Master Audio / DTS-HD High Resolution Audio / DTS Express / MPEG-2 AAC

■ 対応する映像信号

- 480i
- 576i
- 720p 60/50Hz
- 1080p 60/50/24Hz
- 480p
- 576p
- 1080i 60/50Hz
- 4K 60/50/30/25/24 Hz

著作権保護システムについて

HDMI 接続を通して BD ビデオや DVD ビデオなどのデジタル映像と音声を再生するためには、本機とテレビとプレーヤーのすべてが HDCP（High-bandwidth Digital Content Protection System）と呼ばれる著作権保護システムに対応している必要があります。HDCP はデータの暗号化と相手機器の認証からなるコピープロテクション技術です。本機は、HDCP に対応しています。

- HDCP に対応していない機器を接続した場合は、映像と音声を正しく出力できません。お手持ちのテレビやプレーヤーなどについては、それぞれの取扱説明書をご覧ください。

- 本機を Deep Color（ディープ・カラー）、4K、ARC 機能対応の機器と接続する場合は、HDMI ロゴのある“High Speed HDMI cable with Ethernet”を使用してください。

USB メモリーの再生について

- MP3 ID3 タグ(バージョン 2.0)に対応しています。
- 本機では、MP3 ID3 タグのバージョン 2.3 または 2.4 を使用して、アートワークを表示できます。
- WMA META タグに対応しています。
- アルバムアートの画素サイズ(ピクセル)が 500×500(WMA/MP3)または 349×349(MPEG-4 AAC)を超えている場合は、正しく再生できないことがあります。

■ 再生できるファイルの仕様

	サンプリング周波数	チャンネル	ビットレート	拡張子
WMA	32/44.1/48kHz	2 チャンネル	48~192 kbps	.wma
MP3	32/44.1/48kHz	2 チャンネル	32~320kbps	.mp3
WAV	32/44.1/48kHz	2 チャンネル	–	.wav
MPEG-4 AAC *	32/44.1/48kHz	2 チャンネル	48~320kbps	.aac/.m4a
FLAC	32/44.1/48/88.2/96kHz	2 チャンネル	–	.flac

* 著作権保護のないファイルのみ再生できます。
インターネット上の有料音楽サイトからダウンロードしたコンテンツには著作権保護がかかっています。また、パソコンで CD などからリッピングする際に WMA でエンコードすると、パソコンの設定により著作権保護がかかる場合があります。

■ 再生可能な最大ファイル数とフォルダ数

本機で表示できるフォルダやファイルの制限数は次のとおりです。

項目＼メディア	USB メモリー
メモリーの容量	FAT16:2GB、FAT32 :2TB
フォルダの階層数 *1	16 階層
フォルダ数	99
ファイル数 *2	999

*1 制限数にはルートフォルダを含みます。

*2 USB メモリーの容量やファイルサイズにより、許容ファイル数が変わる場合があります。

Bluetooth 機器の再生について

本機は、次の Bluetooth プロファイルに対応しています。

- A2DP(Advanced Audio Distribution Profile):
  この規格に対応している Bluetooth 機器を接続すると、モノラルやステレオの音声データを高品質にストリーミング配信することができます。
- AVRCP(Audio/Video Remote Control Profile):
  この規格に対応している Bluetooth 機器を接続すると、本機から Bluetooth 機器を操作することができます。

■ Bluetooth 通信について

本機からの電波放送は、医療機器の操作を妨げることがあります。電波干渉は故障の原因となるため、次の場所では本機と Bluetooth 機器の電源を必ず切ってください。

- 病院、電車、航空機、ガソリンスタンドや可燃性ガスを発生する場所
- 自動ドアや火災報知機の近く

パーソナルメモリープラス機能

前回使用していたときの設定内容(入力モード、HDMI 出力モード、サウンドモード、トーンコントロール、チャンネルレベル、リストアラーやオーディオディレイなど)を入力ソースごとに記憶します。

- “サラウンドパラメーター”および“トーンコントロール”の設定は、サウンドモードごとに記憶します。

ラストファンクションメモリー

スタンバイにする直前の各種設定を記憶します。

サウンドモードとチャンネル出力の関係

○ 音声を出力するチャンネル、または設定できるサラウンドパラメーターを示します。
◎ 音声を出力するチャンネルを示します。ただし、メニューの“スピーカーの構成”の設定により出力されるチャンネルが異なります。(☞89 ページ)

サウンドモード	チャンネル出力			
	フロント左右	センター	サラウンド左右	サブウーハー
Direct（2チャンネル）	○			◎*
Direct（マルチチャンネル）	○	◎	◎	◎
Stereo	○			◎
Multi Ch In	○	◎	◎	◎
Dolby Pro Logic Ⅱ	○	◎	◎	◎
DTS Neo:6	○	◎	◎	◎
Dolby Digital	○	◎	◎	◎
Dolby Digital Plus	○	◎	◎	◎
Dolby TrueHD	○	◎	◎	◎
DTS Surround	○	◎	◎	◎
DTS 96/24	○	◎	◎	◎
DTS-HD	○	◎	◎	◎
DTS Express	○	◎	◎	◎
MPEG-2 AAC	○	◎	◎	◎
Multi Ch Stereo	○	◎	◎	◎
Virtual	○			◎

* メニューの“サブウーハーモード”が“LFE+メイン”に設定されている場合に音声を出力します。(☞92 ページ)

サウンドモードとパラメーター一覧表

サウンドモード	サラウンドパラメーター								トーンコントロール	リストアラー *3
	モード	ダイナミックレンジ圧縮 *1	LFE *2	サブウーハー	Dolby Pro Logic II Musicモードのみ			DTS Neo:6 Musicモードのみ		
					パノラマ	ディメンション	センター幅	センターイメージ		
Direct（2チャンネル）		○		○*4						
Direct（マルチチャンネル）		○	○							
Stereo		○	○	○					○	○
Multi Ch In			○						○	
Dolby Pro Logic II	○	○			○	○	○		○	○
DTS Neo:6	○	○						○	○	○
Dolby Digital		○	○						○	
Dolby Digital Plus		○	○						○	
Dolby TrueHD		○	○							
DTS Surround		○	○						○	
DTS 96/24		○	○						○	
DTS-HD		○	○							
DTS Express		○	○						○	
MPEG-2 AAC			○						○	
Multi Ch Stereo		○	○						○	○
Virtual		○	○						○	○

*1　この項目は、Dolby Digital または DTS 信号を再生しているときに選択できます。

*2　この項目は、Dolby Digital、DTS または DVD オーディオを再生しているときに選択できます。

*3　この項目は、入力信号がアナログ、PCM 48kHz または 44.1kHz のときに設定できます。

*4　メニューの“サブウーハーモード”が“LFE+メイン”に設定されているときに設定できます。(☞92 ページ)

入力信号の種類と対応するサウンドモード

● お買い上げ時に設定されているサウンドモードを示します。
○ 選択できるサウンドモードを示します。

サウンドモード	入力信号の種類とフォーマット													
	ANALOG	PCM		DTS-HD		DTS			Dolby		Dolby Digital		MPEG-2 AAC	
		PCM (マルチチャンネル)	PCM (2チャンネル)	DTS-HD Master Audio	DTS-HD High Resolution	DTS Express	DTS (5.1チャンネル)	DTS 96/24	Dolby TrueHD	Dolby Digital Plus	Dolby Digital (5.1チャンネル)	Dolby Digital (2チャンネル)	MPEG-2 AAC (5.1チャンネル)	MPEG-2 AAC (2チャンネル)
DTS Surround														
DTS-HD MSTR				●										
DTS-HD HI RES					●									
DTS Surround							●							
DTS 96/24								●						
DTS Express						●								
DTS Neo:6 Cinema	○		○		○	○						○		○
DTS Neo:6 Music	○		○									○		○
Dolby Surround														
Dolby TrueHD									●					
Dolby Digital Plus										●				
Dolby Digital											●			
Dolby Pro Logic II Movie	○		○									●		●
Dolby Pro Logic II Music	○		○									○		○
Dolby Pro Logic II Game	○		○									○		○
Dolby Pro Logic	○		○									○		○
Multi Ch In														
Multi Ch In		●												
MPEG-2 AAC														
MPEG-2 AAC													●	
Direct														
Direct	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
オリジナルサウンドモード														
Multi Ch Stereo	●	○	●				○	○			○	○	○	○
Virtual	○	○	○				○	○			○	○	○	○
Stereo														
Stereo	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

用語の解説

■ Dolby

Dolby Digital

Dolby Digital は、ドルビーラボラトリーズにより開発されたマルチチャンネルデジタル信号フォーマットです。

再生チャンネルは、フロント 3 チャンネル(FL、FR、C)とサラウンド 2 チャンネル(SL、SR)、低音域専用の LFE チャンネルの合計 5.1 チャンネルで構成されています。

このため、チャンネル間のクロストークもなく、音の遠近感、移動感、定位感など立体感のある音場をリアルに再現することができます。AV ルームでの映画ソフト再生においても、リアルで圧倒的な臨場感を生み出します。

Dolby Digital Plus

Dolby Digital Plus は、Dolby Digital を改良した信号フォーマットで、最大 7.1 チャンネルのデジタルディスクリート音声対応とともに、データビットレートに余裕を持たせることにより音質の向上が図られています。従来の Dolby Digital に対して上位互換であるため、ソース信号や再生機器の状況に応じて、より柔軟性の高い運用が可能となっています。

Dolby Pro Logic Ⅱ

Dolby Pro Logic Ⅱ は、ドルビーラボラトリーズにより開発されたマトリクスデコード技術です。

CD のような通常の音楽は 5 チャンネルの信号にエンコードし、優れた立体音域効果を発揮します。

サラウンドチャンネルはステレオ化、フルバンド化(周波数特性 20Hz～20kHz 以上)し、あらゆるステレオ音源を臨場感豊かな立体音像でお楽しみいただけます。

Dolby TrueHD

Dolby TrueHD は、ドルビーラボラトリーズの高精細音声技術で、ロスレス符号化技術を用いることによりマスター音声の忠実な再現を可能としています。

このフォーマットはサンプリング周波数 96kHz/24bit では最大 8 チャンネル、サンプリング周波数 192kHz/24bit では最大 6 チャンネルの音声に対応しており、特に音質を重視したアプリケーションに採用されています。

■ DTS

DTS

Digital Theater System の略で、DTS 社が開発したデジタル音声システムです。DTS 対応アンプなどと接続して再生すると、映画館のような正確な音場定位と臨場感のある音響効果が得られます。

DTS 96/24

DTS 96/24 は、DVD-Video 上でサンプリング周波数 96kHz/量子化ビット数 24bit の高音質再生を可能としたデジタル音声フォーマットです。チャンネル数は 5.1 チャンネルとなります。

DTS Digital Surround

DTS™ Digital Surround は、DTS 社の標準デジタルサラウンドフォーマットで、サンプリング周波数が 44.1kHz または 48kHz、再生チャンネル数が最大 5.1 チャンネルのデジタルディスクリートサラウンド音声フォーマットです。

DTS-HD

ブルーレイディスクのオプション音声として採用された、従来の DTS をさらに高音質・高機能化したデジタル音声技術です。

多チャンネル、高データ転送速度、高サンプリング周波数やロスレス・オーディオ再生をサポートしています。ブルーレイディスクでは、最大 7.1 チャンネルまで対応しています。

DTS-HD High Resolution Audio

DTS-HD High Resolution Audio は、従来の DTS、DTS-ES、DTS 96/24 フォーマットを改良した信号フォーマットで、サンプリング周波数の 96kHz/48kHz 対応に加えて最大 7.1 チャンネルのデジタルディスクリート音声に対応しています。余裕のあるデータビットレートによって高音質化を図っています。また、この信号フォーマットには従来の 5.1 チャンネル DTS デジタルサラウンドのデータも含んでいるため、従来製品とも完全な互換性があります。

DTS-HD Master Audio

DTS-HD Master Audio は、DTS 社のロスレス音声フォーマットです。サンプリング周波数 96kHz/24bit では最大 8 チャンネル、サンプリング周波数 192kHz/24bit では最大 6 チャンネルに対応しています。また、従来の DTS デジタルサラウンド 5.1 チャンネルのデータも含むため従来製品との完全な互換性を有しています。

DTS Neo:6™ Surround

DTS Neo:6™は、2 チャンネルソースを 6.1 チャンネルのサラウンド再生するマトリクスデコード技術です。映画再生に適した“DTS Neo:6 Cinema”と、音楽再生に適した“DTS Neo:6 Music”があります。

■ 音声

FLAC(Free Lossless Audio Codec)

可逆圧縮方式のフリーの音声ファイルフォーマットです。可逆圧縮のため、原音からの音質の劣化がありません。

FLAC のライセンスについては、次のとおりです。

Copyright (C) 2000, 2001, 2002, 2003, 2004, 2005, 2006, 2007, 2008, 2009 Josh Coalson

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

- Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
- Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
- Neither the name of the Xiph.org Foundation nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS “AS IS” AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE FOUNDATION OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

LFE

Low Frequency Effect の略で、低音部の効果音を強調するための出力チャンネルです。20Hz～120Hz の重低音を出力することで、サラウンド音声に迫力を加えることができます。

MP3 (MPEG Audio Layer-3)

音声データ圧縮方式の 1 つで、国際的な標準規格です。映像圧縮方式の「MPEG-1」に採用されています。音楽 CD 並の音質を保ったままデータ量を約 1/11 に圧縮できます。

MPEG-2 AAC

MPEG-2 AAC(Advanced Audio Coding)は、MPEG (Moving Picture Experts Group)により開発されたマルチチャンネル音声フォーマットです。

高音質・高圧縮率を確保できることが特長です。

MPEG-2 AAC により地上デジタル放送や BS デジタル放送などで配信される高音質音楽番組やマルチチャンネル音声の映画など、臨場感あふれるサラウンド再生が楽しめます。

MPEG(Moving Picture Experts Group)、MPEG-2、MPEG-4

デジタル圧縮形式として映像や音声を符号化するために使用される規格群の名前です。ビデオの規格には、“MPEG-1 Video”、“MPEG-2 Video”、“MPEG-4 Visual”、“MPEG-4 AVC”などがあります。音声の規格には、“MPEG-1 Audio”、“MPEG-2 Audio”、“MPEG-4 AAC”などがあります。

WMA(Windows Media Audio)

米国 Microsoft Corporation によって開発された音声圧縮技術です。

WMA データは、Windows Media® Player を使用してエンコード(符号化)することができます。

WMA ファイルは、米国 Microsoft Corporation より認証を受けたアプリケーションを使用してエンコードしてください。もし、認証されていないアプリケーションを使用すると、正しく動作しないことがあります。

サンプリング周波数

サンプリングとは、音の波(アナログ信号)を一定時間の間隔で刻み、刻まれた波の高さを数値化(デジタル信号化)することです。

1 秒間に刻む回数をサンプリング周波数といい、この数値が大きいほど原音に近い音を再現できます。

スピーカーインピーダンス

交流抵抗値のことで Ω（オーム）という単位であらわします。
この値が小さいほど大きな電力が得られます。

ダイアログノーマライゼーション機能

Dolby Digital、Dolby Digital Plus、Dolby TrueHD、DTS または DTS-HD ソースの再生中、自動的に動作します。
この機能は、プログラムソースごとに異なる標準信号レベルを自動的に補正します。

ダイナミックレンジ

機器が出すノイズに埋もれてしまわない最小音と、音割れしない最大音との音量差のことです。

ダウンミックス

サラウンド音声のチャンネル数を、より少ないチャンネル数に変換して再生する機能です。

■ その他

HDCP

機器間でデジタル信号を送受信する際に信号を暗号化し、コンテンツが不正にコピーされるのを防止する著作権保護技術の 1 つです。

ペアリング

ペアリング（登録）とは、Bluetooth 機器と本機を接続するために必要な操作です。ペアリングすると互いの機器が認証し合うので、混線することなく接続できます。
はじめて Bluetooth 機器を接続する場合は、最初に本機と本機に接続する Bluetooth 機器をペアリングする必要があります。

保護回路

何らかの原因で過負荷や過電圧、高温状態などの異常が起きたときに、電源内部の部品が破損するのを防止する機能です。

登録商標について

Made for iPod iPhone iPad

Apple is not responsible for the operation of this device or its compliance with safety and regulatory standards. Please note that the use of this accessory with iPod, iPhone, or iPad, may affect wireless performance.

iPad, iPhone, iPod, iPod classic, iPod nano, iPod touch, and Retina are trademarks of Apple Inc., registered in the U.S. and other countries. iPad Air and iPad mini are trademarks of Apple Inc.

Bluetooth technology works with iPhone 6 Plus, iPhone 6, iPhone 5s, iPhone 5c, iPhone 5, iPhone 4s, iPhone 4, iPad Air, iPad (3rd and 4th generation), iPad 2, iPad mini with Retina display, iPad mini, and iPod touch (5th generation).

The trademark “iPhone” is used with a license from Aiphone K.K.

- iPad、iPhone および iPod touch は、著作権のないコンテンツまたは法的に複製、再生を許諾されたコンテンツを個人が私的に複製、再生するために使用許諾されるものです。著作権の侵害は法律上禁止されています。

Bluetooth

Bluetooth®のワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG、Inc.が所有する登録商標であり、D&M Holdings Inc.はこれらのマークをライセンスに基づいて使用しています。その他の商標および商標名は、それぞれの所有者に帰属します。

DOLBY AUDIO COMPATIBLE DOLBY VISION

ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。
Dolby、Dolby Audio、Pro Logic、Dolby Vision およびダブル D 記号は、ドルビーラボラトリーズの商標です。

DTS の特許については、http://patents.dts.com をご覧ください。
DTS、シンボル、DTS およびシンボルとの組み合わせ、DTS-HD および DTS-HD ロゴは、米国および/またはその他の国における商標または DTS、Inc.の登録商標です。© DTS, Inc. 版権所有。

HDMI および HDMI の High-Definition Multimedia Interface および HDMI ロゴは、米国およびその他の国における商標または HDMI Licensing LLC の商標または登録商標です。

主な仕様

■ オーディオ部

- **パワーアンプ部**

定格出力:
フロント:
70W+70W(負荷 8Ω、20Hz～20kHz T.H.D. 0.08%)
90W+90W(負荷 6Ω、1kHz T.H.D. 0.7%)
センター:
70W(負荷 8Ω、20Hz～20kHz T.H.D. 0.08%)
90W(負荷 6Ω、1kHz T.H.D. 0.7%)
サラウンド:
70W+70W(負荷 8Ω、20Hz～20kHz T.H.D. 0.08%)
90W+90W(負荷 6Ω、1kHz T.H.D. 0.7%)

実用最大出力:
110W+110W(負荷 6Ω、1kHz T.H.D. 10% 2 チャンネル駆動 JEITA)
140W(負荷 6Ω、1kHz T.H.D. 10% 1 チャンネル駆動 JEITA)

出力端子: 6～16Ω

- **アナログ部**

入力感度/入力インピーダンス: 200mV/47kΩ
周波数特性: 10Hz～100kHz:+1、-3dB(Direct モード時)
S/N 比: 98dB(IHF-A、Direct モード時)

■ チューナー部

	[FM]	[AM]
受信周波数範囲:	76.0MHz～95.0MHz	522kHz～1629kHz
実用感度:	1.2μV(12.8dBf)	18μV
50dB 感度:	モノ:2.8μV(20.2dBf)	
S/N 比:	モノ:70dB(IHF-A、Direct モード時) ステレオ:67dB(IHF-A、Direct モード時)	
ひずみ率:	モノ:0.7%(1kHz) ステレオ:1.0%(1kHz)	

■ Bluetooth 部

通信システム:	Bluetooth バージョン 3.0+EDR (Enhanced Data Rate)
送信出力	最大 2.5mW(Class2)
最大通信範囲:	見通し距離 約 10m *
周波数帯域:	2.4GHz
変調方式:	FHSS (Frequency-Hopping Spread Spectrum)
対応プロファイル:	A2DP(Advanced Audio Distribution Profile)1.2 AVRCP(Audio Video Remote Control Profile)1.5
対応コーデック:	SBC, AAC
伝送範囲(A2DP):	20Hz～20,000Hz

* 実際の通信範囲は機器間の障害物、電子レンジの電磁波、静電気、コードレスフォン、受信感度、アンテナの性能、操作システム、アプリケーションソフトウェアなどの影響により異なります。

■ 総合

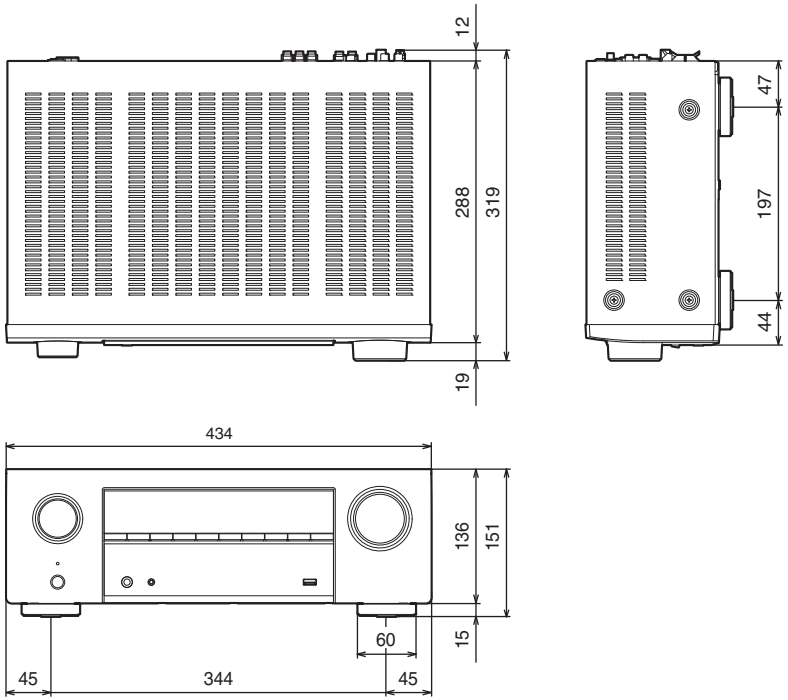
電源:	AC100V、50/60Hz
消費電力:	310W
スタンバイ時の消費電力:	0.1W *
CEC スタンバイ時の消費電力:	0.5W
Bluetooth スタンバイ時の消費電力:	1W

* メニューの“Bluetooth スタンバイ”設定が“オフ”で、なおかつ“HDMI パススルー”設定が“オフ”のとき

JEITA:(社)電子情報技術産業協会(略称:JEITA)が制定した規格です。

仕様および外観は改良のため、予告なく変更することがあります。

■ 寸法(単位:mm)



■ 質量:7.6kg

使用上のご注意

■ 携帯電話使用時のご注意

本機の近くで携帯電話をご使用になると、雑音が入る場合があります。携帯電話は本機から離れた位置で使用してください。

■ お手入れについて

- キャビネットや操作パネル部分の汚れは、やわらかい布で軽く拭き取ってください。化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書きに従ってください。
- ベンジンやシンナーなどの有機溶剤および殺虫剤などが本機に付着すると、変質や変色の原因になりますので使用しないでください。

■ 結露(つゆつき)について

本機を寒いところから急に暖かいところに移動させたり、本機を設置した部屋の温度を暖房などで急に上げたりすると、内部(動作部)に水滴が付くことがあります(結露)。結露したまま本機を使用すると、正常に動作せず、故障の原因となることがあります。結露した場合は、本機の電源を切ったまま 1 ～ 2 時間放置してから使用してください。

索引

☞ 英数字
3D 116
4K 116
5.1 チャンネル 21, 24

☞ B
Bluetooth 機器 43

☞ D
DTS サウンドモード 58, 126
DVD プレーヤー 31, 39

☞ F
FM/AM アンテナ 34, 48

☞ H
HDCP 118
HDMI コントロール 61, 79

☞ P
PCM マルチチャンネルサウンドモード 58

☞ U
USB メモリー 33, 40

☞ い
一般の設定 69, 93

☞ え
衛星放送チューナー 30
映像の設定 67, 78
エコモード 93

☞ お
オーディオの設定 67, 71
オートスタンバイ 94
お買い上げ時の設定に戻す 113
オリジナルサウンドモード 59
音声フォーマット 118, 119
音量 39, 62

☞ け
ケーブルテレビ 30
ゲーム機 32

☞ こ
故障かな？と思ったら 101
こんなときの解決方法 100

☞ さ
サウンドモード 57, 122, 123

☞ す
ステレオサウンドモード 59
スピーカーを接続する 20
スピーカーの設定 68, 84
スリープタイマー 63

☞ せ

セットアップアシスタント 69
セットトップボックス 30

☞ た

ダイレクトサウンドモード 59

☞ て

ディスプレイ 13
テレビ 26, 27, 28

☞ と

トーンコントロール 54
ドルビーサウンドモード 58, 125

☞ に

入力信号 124
入力ソース 38
入力端子の割り当て 82
入力の設定 68, 82

☞ ひ

ビデオカメラ 32
ビデオセレクト 56

☞ ふ

ブルーレイディスクプレーヤー .. 31, 39
フロントパネル 10

☞ へ

ペアリング 43, 45

☞ ほ

保護回路について 129

☞ み

ミューティング 39

☞ め

メニュー 一覧 67

☞ ら

ランダム再生 53

☞ り

リアパネル 14
リストアラー 74
リスニングポイント 84
リピート再生 53
リモコン 16

当社製品のご相談と修理についてのお問い合わせは、お買い上げ店または下記窓口にご連絡ください。

お客様相談センター

☎ 0570（666）112
FAX : 044（330）1367

■ 受付時間　9 : 30 ～ 17 : 30
（当社休日および祝日を除く、月～金曜日）

■ 上記番号がご利用いただけない場合　☎ 050（3388）6801
〒 210-8569　神奈川県川崎市川崎区日進町 2 番地 1　D&M ビル

■ お問い合わせをいただく前に、ホームページの FAQ をご確認ください。
http://denon.jp/jp/html/faq.html

■ メールでお問い合わせをいただくこともできます。
http://denon.jp/jp/html/contact.html

＊ 電話番号・ファックス番号・URL は変更になる場合があります。

修理相談窓口

☎ 0570（666）811

■ 受付時間　9 : 30 ～ 12 : 00 、13 : 00 ～ 17 : 30
（当社休日および祝日を除く、月～金曜日）

■ 上記番号がご利用いただけない場合　☎ 0466（86）9520

■ 故障・修理・その他のサービス関連情報については、次の当社ホームページでもご確認いただけます。
http://denon.jp/jp/html/service.html

■ 代表修理窓口
首都圏サービスセンター
〒 252-0816　神奈川県藤沢市遠藤 2010-16
FAX : 0466（86）9522

＊ ディーアンドエムホールディングス本社では製品の修理を受け付けておりません。

DENON®

株式会社 ディーアンドエムホールディングス
〒 210-8569
神奈川県川崎市川崎区日進町 2 番地 1　D&M ビル

3520 10578 00AD
Copyright © 2018 D&M Holdings Inc. All Rights Reserved.